

緑陰随筆

夏季特集号

山口県医師会報

No 1652

発行所 山口県医師会
〒753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
TEL 083-922-2510
編集発行人 藤井康宏
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円（会員は会費に含め徴収）
昭和 31 年 3 月 15 日 第 3 種郵便物認可
（毎月 3 回 1 の日発行）



ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

Photograph

表紙写真によせて

夏風景—涼—

山口 兼定 啓子

四季のある日本では、季節を巧みに取り入れ生活をしてきた。地球温暖化のためか、ヒートアイランドとなった今日、36℃を越す真夏日も今や日常化している。

涼を求めて何処へ？ エアコンの利いた部屋でしょうか？ 打ち水・行水の習慣は失われたのかしら。先日、萩のお宅を訪れた際、玄関の屋根から水が流されるという演出に、日本人の心遣いを呼び戻された。

大雨の翌日の鳴滝で、ゴーゴーと流れ落ちる水の音・飛沫に暑さを忘れた。鳴滝は国道 262 号線から^{うつきはた}楢畑に向う道路沿いにあり、山口の中心地からでも車で 20 分程度の近郊にあり、豊かな自然がある事を嬉しく思う。

中原中也是長谷川泰子との恋に破れ、父の病氣見舞のため帰郷した山口での春の朝、鳴滝の情景を「悲しき朝」という詩に書いているが、診療に追われる日々、感動する心、ときめく心を持ち続けたいと思う。

表紙の写真は、鳴滝山の滝から車で少し上がった河瀬です。此処かしこに小さき滝があり、真夏には子ども達が水遊びをして楽しんでいる。

中表紙は、我がクリニックの裏玄関の観葉植物を^{ねぐら}時にしている若燕の姿。診療を終えて帰る際、チヨット撮りました。何時の間にか常宿になっている。

裏表紙は、鳴滝の帰り雪村展を見るため県立美術館へ。日本の道 100 選の一つであるパークロードは四季折々心を和ませてくれるが、雪村の造形感覚にも負けない枝ぶりを^{けやき}櫟の老大木は見せてくれる。



も く じ

表紙写真によせて	山 口 兼定 啓子 …… 2
はもどしよう 鱧と泥鰌	防 府 平井 得夫 …… 4
書	熊 毛 高本 公 …… 5
M 先生への私信	玖 珂 上利 進 …… 6
ワールドカップを観戦して	大 島 野村 壽和 …… 7
雨月物語	下 関 塩見 祐一 …… 9
明石海人のこと	下 関 柏村 皓一 …… 10
トロイ慕情	吉 南 小林 憲治 …… 12
鹿島槍ヶ岳	下 関 原 八洲雄 …… 14
秋に	阿 武 原 晴朗 …… 15
“ふじ”を探ねて	下 関 織田 登 …… 16
移動採血車	徳 山 徳長 雄幸 …… 18
玉乃世履を追いかけて 4	岩 国 吉岡 達生 …… 19
ニジェールから来たアドさん	下 松 岩本 功 …… 22
虚像、実像そして偶像	岩 国 中川 仁 …… 24
鞍山	厚 狭 岡田 久 …… 27
おい！羅臼に登るぞ。	宇 部 山本 一男 …… 28
だいたい、いいんじゃない	小野田 播磨 一雄 …… 30
風船爆弾	岩 国 沖井 洋一 …… 31
マダガスカル島訪問	徳 山 姫野 英雄 …… 32
柿実る	山 口 国近 満男 …… 34
田舎での、在宅ケアの経験	徳 山 石丸 泰隆 …… 36
花粉計測の 20 年	熊 毛 西川 恵子 …… 37
北の大地に魅せられて	光 高橋 建次 …… 39
よそひと 他人の女	徳 山 望月 一徳 …… 40
あこがれの槍ヶ岳 (3,180 m) へ	山 口 松尾 清巧 …… 42
私の空飛ぶ人生	徳 山 神田 博 …… 43
My favorite time	宇 部 吉本 賢良 …… 45
閑中日本書紀考	宇 部 佐々井一彦 …… 46
シリーズ 酒場の戯れ話	宇 部 綿菊 仁彦 …… 50
阿蘇山へ	美祢市 野間 史仁 …… 52
あとがき	編集委員 薦田 信 …… 53

はも どじょう 鰻 と 泥 鰻

防府 平井 得夫

鰻と泥鰻は夏が旬の食べ物である。

京都の祇園祭は真夏で、この祭りの食べ物に鰻は欠かせない。

交通の便がよくなかった昔、瀬戸内海の魚でこの時期大坂港から京都に運んでも鮮度が保てるのが鰻であった。それで京都を中心にして関西の板前は鰻料理を得意とする。

関西育ちの私は夏になると鰻の照焼きを作る市場の匂いが懐かしくてならなかった。

鰻は防府でもはえ縄で漁れるのだが湯引きしか売られていないし、それも時に茹で過ぎでは我慢できない。ひとの処理法が気に入らないなら自分で料理するしかない。

この魚は小骨が多いので皮を残して肉を薄く骨切りしなくてはならない。刃物店に相談して鰻専用の庖丁を手に入れた。見よう見まねで何十本かの鰻を下ろし、骨切りを重ねるうちに大分上手くなった。

湯引きも自分好みの茹で方が出来た。

骨切りしたものを醤油と味噌で照り焼きにして子供の頃を懐かしんでいる。

頭や背骨からは鰯とは又違った上品な出汁がとれてこれ又うまい。

一昨年大分県中津の古い料亭（筑紫亭）で持ち回りのクラス会が開かれた。鰻づくしの料理と聞いて楽しみにして行った。

中でもシャブシャブが大変うまかった。卓上で煮えている出汁の中に添えの豆腐・野菜を入れ、鰻の切り身を好みの時間浸してポン酢と大根おろしで食べる。

別に特別な手法はなく新鮮な鰻で骨切りさえ出来れば家でも真似する事が出来る。

今ではこれが最も気に入った食べ方となっている。

湯引き・照り焼きのほか、葛たたき・小骨を含

んだ鰻皮を使ってのウザクならぬハモザク・身だけを使って作るしんじょ・塩焼きに海苔と梅肉を添えての鰻茶漬けなど色んな食べかたがあり実に楽しい夏の食材である。

浅草雷門の近くに“どぜう”と染め抜いたのれんを掛けた店がある。駒形という享和元年(1801)以来 200 年程続いた泥鰻専門の有名な店である。

どぜうは旧仮名遣いでない。当時の書き方ではどぢょうとすべきであったが四文字では縁起が悪いとする初代助七の造語である。

私が子供時代を過ごした大阪・京都では鰻屋でたいてい泥鰻も売っており、求めると割いてくれるので家庭で料理が出来た。

田舎の田んぼや小川に多く生息していたが、子供が泥鰻をすくっても鶏にやり、人は汚がって食べたりはしなかった。私の知っている範囲で泥鰻を料理して出す店は京阪と東京と九州では柳川だけであった。

柳川で 2 度泥鰻鍋を食べたことがある。ここが柳川鍋の元祖なのだが鍋が小さくて泥鰻が少なく、鰻のせいろ蒸しに力を入れて柳川鍋にさっぱり工夫がないように思われる。

農薬の使用で全国的に田圃や小川に泥鰻は居なくなっており、現在は養殖か輸入ものである。安来にも天然泥鰻はいないという。

今関西では柳川鍋を出す料理屋・食堂は残念ながらなくなってしまったが、京都の台所と言われて食材を売る錦小路を昨年の夏に歩いたら、川魚屋に背開きして卵を持った泥鰻が売られていた。現在も好き者の需要はあるらしい。しかし今や泥鰻は貴重品になってしまった。

昨年佐賀のクラスメートが柳川の鰻のせいろ蒸しを送ってくれと電話してきた。鰻は好物で有

難いが、柳川なら生きた泥鰌は手に入らないかと聞いたら泥鰌もビニール袋に入れて 1 Kg 送ってくれた。

一度に処分できない量であるから先ずこれを飼育しなければならない。大きい甕に移したものの、麩もご飯粒も食べてくれない。調べたら土壌中の有機物を食べるらしい。庭の落ち葉を含んだ土を^{かめ}甕に入れて解決した。

泥鰌は同じぬるぬるの鰻より小さいだけ数段割くのが難しい。普通の庖丁では無理で、肥後の守や切り出しナイフ・手術用のメスなど種々の小さな刃物を試した。

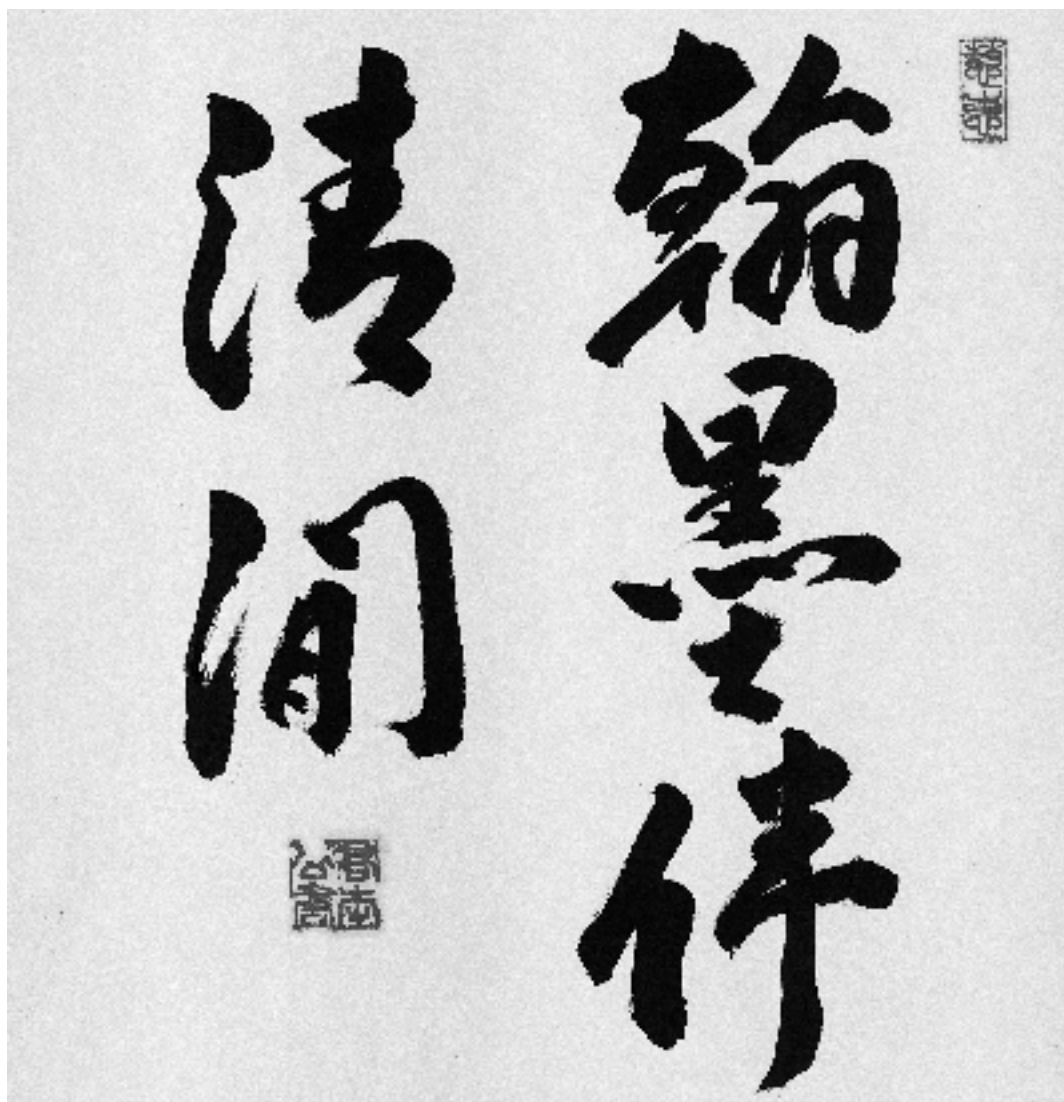
板前に割り方を教わり、何日かに分けて 1 Kg 数十匹を処理したら大分腕前も上達した。

柳川鍋・どぜう鍋は夏の季語であるが、実際は 10 月に入って暑さが和らぎ新牛蒡の出はじめた頃の方がうまい。

浅手の土鍋にさがき牛蒡を敷き、開いた泥鰌を放射状に並べて醤油・味醂で味付けし、煮えたら溶き卵でとじる。卵は半熟のうかがよい。

駒形では卓上に備長炭の七輪が運ばれ、関西風の柳川鍋も作ってくれるが、江戸っ子は浅い鉄鍋に割きか丸かの希望で刻み葱をたくさん加えた味噌仕立ての食べ方が多く、通は丸を好む。胆嚢の苦みがいいらしい。

上京されたら訪ねてみられるとよい。渋谷支店は燃料がガスだから情緒が無い。



高本 公 書

M 先生への私信

玖珂 上利 進

M 先生、「シェーン」の「生涯を適役に徹し己の道を極めた男の顔」の名前は思い出されたのでしょうか。その後、随分散歩を重ねられたことでしょうか。きっと望みはかなえられたこととお察しいたします。

そうです。ジャック・パランスです（以後 J・P と省略）。私も貴殿と同世代に属しますので、こと映画の話題になりますと共通点が多々あると思います。映画大好き人間の私も、最近が残念ながら映画館に足を運ぶ暇がありません。いかなる名画も映画館で見るにしかずですが。近ごろ、ホームシアターなるものが流行り始めているようですが、それも一つの方にすぎないと思っております。

ところで、「シェーン」で強く印象を受けて以来、J・P のことが気掛りになって居りました。数年前、「シティ・スリッカーズ」に J・P を見出し、「健在なり」といささか興奮を覚えました。ひなびた山奥に独り生きる老カウボーイ役でしたが、ここでも黙々として、神秘的なまでの存在感がありました。

さて、この私信をしたために当って、再度「シェーン」を観ました。開拓農民の血気にはやる若者に不敵な挑発をしかけます。

ゆっくりと右手にだけ黒革の手袋をつける仕種と言い、対決時の「やるか」（原語では確かプリティット）も効果絶大。

シェーン（アラン・ラッド、以後 A・R）との最後の対決では、一弾のもとに殺られてしましますが、A・R を待ち受ける殺し屋ウィルソンは、長身で少々猫背、それに頬骨の張った顔に浮きあがる不敵な笑い、低音で無機質な声が強く印象に残ります。

「シティ・スリッカーズ」以後も J・P の出演する映画を求めていましたが、4・5 年前とある書

店にて「バグダッド・カフェ」に出会いました。J・P はカリフォルニア州・モハーヴェ砂漠の田舎町でキャンピングカーに独居する自称画家を演じています。ここでも脇役に徹し、多くを語りません。しかし、年齢を重ねて出てくる存在感は確たるものがあります。

ここまで書いて来ると、J・P の弁護ばかりしている様ですが、それも貴殿の「・・・敵役の黒づくめの見るからに悪人面の男は映画の中で厄払いしたのか長生きをして・・・云々」を読んで、一 J・P ファンとして些かその気になったのも否認めません。「シェーン」での A・R は確かにはまり役で、あの一作で一躍スターの座を掴みました。しかし、その後の作品ではあまり印象に残るものはないように思えます。一方、J・P は殆んど脇役に徹していますが、年輪とともに人間味を増し、いまや名脇役の域に到したと言えるでしょう（現在 82 才）。

ふと思いついたのですが、「シェーン」をリメイクするとすればだれが適役か。シェーンには C・イーストウッド、或は、S・シェパート、農民夫婦は・・・、夫は H・カイトル、妻役は M・ストリープ、息子のジョーイはやはり当のブランドン・デ・ウィルデ（彼も十代で亡くなったようです）。

さて、殺し屋ウィルソンは、アーネスト・ボーグナイン。一寸背丈不足。クリストファー・ウォーケン。モダンすぎる。こうなるとわがジャック・パランスしかいないと云うことになります。結論、リメイクは不可能と云うことです。

近年、コンピュータグラフィック処理による映画（映像）が出まわる様になりました。映画はフィルムによるものに限ります。映画は、字の如く陰影を含まなくてははいけません。余韻（陰）がないと深みが出ません。

私信を終るに当り、貴殿にお願いがございます。

貴殿にも散歩の足先を時には映画館の方へ向けて
くださいますように。

追伸

玖珂郡医師会より原稿依頼を受け、困窮しているところ、はたと貴殿の「私説映画史」を想い出し、突然、このような私信をさし上げたわけがあります。どうぞ悪しからず。

~~~~~

## ワールドカップを観戦して

大島 野村 壽和

2002 年日韓共催ワールドカップの開催が決定した時に、日本でワールドカップがあるのであれば、1 試合だけでもいいから見てみたいという願望がでてきました。そして万が一にも当たってくればラッキーという思いで国内 1 次販売に申し込みました。新聞等ではかなりの高倍率なためほぼ諦めていたところ、なんと決勝戦のチケットが当たってしまいました。まわりからは、『一生の運を使い切ったね』、『宝くじを当てた方がよかったのではないか』などいろいろと言われましたが、とにかく当たったことが凄く嬉しく子供のよう興奮してしまいました。出場国も、フランス、日本、韓国以外には決まってもいませんでしたが、決勝戦であれば最高の試合が見られるだろうと勝手に思い込み 1 年後の試合を楽しみに待っていました。

出場国も次々に決定し 12 月 1 日にソウルで組み合わせ抽選会が行われました。この組み合わせ

でもっとも興味を持たされたのは『死の F 組』といわれたなかでのイングランド対アルゼンチンではないでしょうか。いろいろと因縁のある両チームの予選での闘い方に注目しました。その他にも日本戦はもちろんのこと、個人的には開幕戦のフランス対セネガル、カメルーン対ドイツ、イタリア対クロアチア、南アフリカ対スペイン等が面白いのではないかと思います。



そして、5 月 31 日ソウルスタジアムでのフランス対セネガル戦で約 1 か月にわたる闘いの火蓋がきっておとされました。開幕戦は前回優勝、今回も優勝候補であるフランスが初出場のセネガルに敗れるという波瀾のスタートとなりました。そして今までに開催国

が予選で敗退した前例はないというプレッシャーの中で日本は H 組の 1 位で、韓国は D 組の 1 位で開催国の両国がそろって予選を突破したのは見事な事ではなかったでしょうか。その反面優勝候補にも挙げられていたフランス、アルゼンチン、

その他ポルトガル、カメルーン等の強豪国が次々に予選で敗退してしまいました。決勝トーナメントでは、日本は初戦で敗れてしまいましたが、韓国の闘いには目をみはるものがありました。審判の誤審問題が騒がれてはいましたが、それでもイタリア、スペインの欧州の強豪国を破ってのベスト 4 入りは立派な事だと思いました。そして決勝はドイツ対ブラジルと

の闘いになりました。当日、駅周辺ではブラジルの国旗に身を包み(?)、クラクションを鳴らしながら走る車、駅からスタジアムまでの道のりは、カナリア色のユニホームを着た人でいっぱいであり、陽気なブラジル人の華麗なサンバの踊りをしていると、まるで日本で



ないような感じさえしました。始まる前からあたかもブラジルが優勝したかのような盛り上がりようでした。一緒に連れて行った長男は周りの雰囲気圧倒され何がなんだかわからず怖じけづいていました。これは大島という田舎に住んでいて大勢の人に対する免疫ができていなかったためでしょうか？ スタジアムに入って綺麗な芝生の緑色に圧倒されました。いろいろと趣向の凝った閉会式の後、世紀の一戦がはじまりました。当初は、リバウド、ロナウド、ロナウジーニョの 3R 対カーンを中心としたドイツディフェンスの闘いといわれていましたが、前半戦は予想に反して大きな動きはなく逆にドイツの方が優勢にゲームを進めているように見え、もしかしたらドイツが勝つのではないかと思えました。後半に入って得点王を狙うロナウドが 2 点を入れて勝利を確実にしました。しかしこの 2 点はすべてリバウドの演出したものでした。1 点目は名手カーンのファブルを誘う左足での強烈なシュートで、2 点目はクレベルソンからのパスをロナウドの動きを察知した見事なスルーパスから生まれたものでした。ブラジルサポーターの多かったスタジアムでの得点が入った時の歓声はテレビ観戦では味わうことのできない大変大きな歓

声でした。試合終了後の審判、ドイツ、ブラジルそれぞれの選手へのメダルの授与、そして 271 万羽の鶴が舞うなかでの優勝カップの授与、ブラジル国旗を身に纏い、優勝カップを抱き抱えながらの場内一周のウィングランは感動的でした。そして、今までに何度も出場し、過去にブラジルが 4 度、ドイツが 3 度優勝しているその両

国の初対決がこの横浜で、それも決勝という舞台で観戦できたのは一生の思い出の一つとなることでしょう。振り返ってみると、決勝に進んだ両国も予選では苦戦し、本大会出場も無理かと思われる時期もありました。その 2 カ国が決勝まで進んだのはブラジル、ドイツそれぞれの強豪国と

しての精神的な強さではないでしょうか。

次回ワールドカップはドイツでの開催が決定しています。日本は本大会出場に向けて予選から厳しい戦いが続くと思われますが、ドイツ大会で予選突破してこそ、真の強さを認められると思うのでどうか頑張ってもらいたいものです。そして今大会以上の成績を残してほしいです。そのためには若手がどんどん海外の強豪チームに行って揉まれることも必要ですし、Jリーグ全体のレベルアップも必要だと思います。今回決勝で涙を飲んだドイツには地元開催でもある次回に今大会以上の成績を残してほしいものです。

## 雨月物語

下関 塩見 祐一

季節にふさわしい題材を考えたが、投稿募集の時点では見当たらなかった。だから、この題に決めたのだけれど、内容は上田秋成の短編集と全然関係ない僕の日記からの 3 日分である。ころは、今年の 4 月初旬から 5 月中旬に至るまで、梅雨のような雨が多い日々だった。そして僕の心模様も、まったく同じ涙雨。

4 月 X 日（溺水死）

朝一番に「先生！U からお電話です」。受話器を取ると「先生がかかりつけの M さんが、旅館のお風呂で溺死されました。つきましては、…」。

ビックリした。昨日の朝、許可が当然のように M さん（75 才）が「息子が U に 2 泊 3 日をとってくれたから、内の奴と一緒に行ってイイかいのう」と嬉しそうに言って診察室を出たのに。

後日、奥さんが来られた。「私が先にお風呂を出るとき、主人は『アア、極楽じゃ！』って、本当に幸せだったと思います。それにいつも『俺あー、子どもなんかに迷惑かけんで死ぬけえの』と言っていましたから」と。

— めずらしく 息子のくれた 孝行の  
至福の中で 大往生 —

5 月 X 日（老衰死）

夫婦 2 人住まいの S さん（88 才）が、最近とみに弱ってきた。4 月中旬、奥さんが「主人は年も年ですし、入院もイヤと言っております。もしかの時には、先生、お願いしますネ」と頼まれる。5 月の GW もあるし、奥さんといろいろのシナリオ（適切な表現がない！）を相談した。

昼の 1 時 15 分、奥さんから電話あり。「12 時半ころ、牛乳を『おいしい』と言って飲んだ後寝ていたのが、1 時過ぎから息のしかたがおかしい一んです」。

受話器を置くなり、聴診器とペンライトを持ってスッ飛んで往診。1 時 30 分に永眠される。帰院し、開業するとメッキリ少なくなった“死亡診断書”を書いた。

— 願わくば 昼の上で 妻と子へ  
「じゃあな」と言って 永久<sup>とわ</sup>の眠りに —

5 月 X 日（闘病死）

4 月中旬だった、〇癌で闘病入院中の K さん（79 才）の奥さんが下関駅で僕の目の前を、無視するように通り過ぎたのは。その時は、毎日々々ご主人の付き添いが大変で、入院前の主治医どころではないんだろうなと思っていた。

数日後、K さんの元同僚が、僕に「K さんは 4 月 X 日亡くなられたそうですね」。「エッ！」と言葉を失った。3 月末に「抗がん剤はつらいけど頑張ります」と言っていたのに。すると、奥さんは本気だったの？ 情けないヨウ！

だけど今日の昼休み、奥さんが「いろいろあって遅れましたが、お世話になりました」と挨拶に来られた。やはり、僕の思い過ごしだったかと、一人で納得することにした。

— 発つ場所は みんな違って みんないい  
病室、自宅 そして旅先 —

なお、文中の歌 3 首の出典（？）は私家版“塩見馬鹿罵歌集”です。後 2 者はご存じのように、1 つは西行法師と 2 つは金子みすゞさんの詩歌の「本歌取り」です。もし「文学と死者への冒涇だ」と感じられたら、文章の流れから、僕の真意が真面目なものと推察されて、どうかご容赦を！

# 明石海人のこと

下関 柏村 皓一

ふと寄った書店で「よみがえる万葉歌人 明石海人」という本を見つけた。いかにも時代がかった装丁と、帯紙の「さくら花かつ散る今日の夕ぐれを幾世の底より鐘の鳴りくる」という短歌に引かれて頁をめくった。そして心の隅にいつも引っかかっていた文章に出会ったのである。

癲は天刑である。

加はる<sup>しもと</sup>答の一つ一つに、嗚咽し慟哭しあるひは呻吟しながら、私は苦患<sup>くげん</sup>の闇をかき捜って一縷の光を渴き求めた。

一深海に生きる魚族のやうに、自らが燃えなければ何処にも光はない—さう感じ得たのは病がすでに膏盲に入ってからであった。

・・・・・・・・・・

人の世をのがれて人の世を知り、骨肉を離れて愛を信じ、明を失って内にひらく青山白雲をも見た。

癲はまた天啓でもあった。

多分中学生の時だったと思うが、私はこの文章を読んだことがあり、冒頭と掉尾の文句は強烈に心に残っていた。しかし作者の名を忘れてしまい、もう一度読んでみたいと思いつつ叶わず、漸く本書にいたって作者が明石海人ということを知った。

本書によれば、海人の本名は野田勝太郎、明治 34 年 7 月に静岡県旧家に三男として生を受けた。その後沼津商業高校、静岡師範（現静岡大学教育学部）を経て、小学校の訓導となった。大正 15 年、25 歳の時に東大病院で癲病（現在はハンセン病）と宣告された。小学校の教師として平穏な日々があり、結婚して長女をもうけ、妻は第二子を身ごもっていた。

当時癲病は天刑病ともいわれたように、治療法はなく、宣告は即人間として否定されることであった。大部分の者は家を、本名を、そして戸籍さえ捨てなければならず、残されているのは腐食し止まない己の肉体とその帰結としての死であった。

こと言もなく昇汞水に手を洗ふ医師のけはいに  
眼をあげがたし

妻は母に母は父に言ふわが病癲へだててその声を聞く

職を辞した海人は程なく故郷を離れた。藁にも縋る思いで明石にあった第二楽生園に入院した。結果は思わしくなく、和歌山県の打田に家を借り、評判の病院の治療に望みを繫いだ。

子を守りて終らむといふ妻が言身には沁み  
つつなぐさまなくに

梨の実の青き野径を<sup>のみち</sup>あそびてしその翌<sup>あけ</sup>の日  
を別れきにけり

鉄橋へかかる車室のとどろきに憚らず呼ぶ  
妻子がその名は

期待した打田での治療も効果なく、行き場のない海人は第二楽生院に帰らざるを得なかった。このころ海人を打ちのめしたのは妻との離婚話であり、経営的に成り立たなくなった第二楽生院の閉鎖問題だった。

因みに日本では明治 40 年に「らい予防法」が施行され、全国を 5 ブロックに分けて療養所ができていたが、収容を目的としたもので、むしろ刑務所に近かった。また熊本のハンナ・リデルを持ち出すまでもなく、患者に救いの手を差しのべた人の多くはキリスト教の宣教師であり、第二楽

生園においても受洗する者が多かった。しかし海人は宗教を肯んじ得ず、周囲から孤立し、遂に発狂するに至ったという。

海人の危機を救ったのは、昭和 6 年に国立として初めて建設された長島愛生園であり、既にそこに移されていた第二楽生園の病友達だった。7 年に人事不省の状態の入園した海人は、友人達の献身的な看病によって徐々に正常に復していった。しかし 8 年には故郷の父を失ってしまう。

あが父よまさきくあれと<sup>あ</sup>吾も病みて眠りなき夜をひたすら祈る  
はかなくも病み病む我や永らへて今日ふるさとの父逝くときく<sup>わたごろも</sup>  
送り来し父がかたみの綿衣<sup>わたごろも</sup>ながら我に合ふがすべなさ

精神的に立ち直った海人は蝕まれいく肉体に抗うように作歌へ傾倒していった。その精進はすさまじく、10 年 1 月には一流の短歌誌である尾上柴舟の「水甕」に 14 首が特選として掲載され、前川佐美雄の「日本歌人」にはたちまちにして同人に推挙されている。そして「新万葉集」の発刊が海人の名を一挙に全国的なものにした。本書は改造社を創った山本実彦が社運をかけて企画したもので、全国から秀歌を募り、流派を越えた文化遺産としての歌集を目指したものだ。選者には斎藤茂吉、北原白秋、与謝野晶子など錚々たる 13 名が当たった。このため企画は大評判となり、最終的に応募作品は 40 万首を超えたという。作品は公平を記すためにすべてタイプ印刷原稿とし、無記名で、番号のみ表記された。

「新万葉集」第一巻が出たのは昭和 13 年 1 月下旬のことだった。海人の作品は 11 首が採用された。

そのかみの悲田施葉のおん后<sup>ま</sup>今も坐すかとをろがみまつる  
みめぐみは言はまくかしこ日の本の癪者<sup>あ</sup>に生れてわが悔むなし  
世の常の父子なりせばこころゆく嘆きはあらむか<sup>きは</sup>かる際にも

拭へども拭へども去らぬ眼のくもり物言ひかけて声を呑みたり<sup>ねあせ</sup>  
更へなづむ盗汗の衣この真夜を恋へばはてなしははそはの母よ

一躍時の人となった海人に原稿依頼が殺到した。昭和 14 年 1 月には改造社から歌集「白描」が出版された。冒頭に掲げた文章は本書の巻頭言の一部である。海人は既に両眼を摘出されて盲目となり、気管切開で声を失い、腸結核のために全身衰弱が著しかった。病友の献身による命を賭しての出版だった。

歯に沁みて慰問の餅の冷ゆるにも不惑に到らぬ命かと思ふ<sup>ぬけう</sup>  
いつしかも<sup>ぬけう</sup>脱失せてける生爪の嘗むればやさし指の円<sup>まる</sup>みは  
なりゆかむ果ては思はず吸ふ息の安らふ暫しを眠らむとする

この年 6 月、海人は 37 歳の短い生涯を閉じた。海人が亡くなって数年後にプロミンが開発され、ハンセン病は治癒可能な疾患となった。それとともに嘗て癪者がなめた塗炭の苦しみも、海人の業績も時の流れに埋没されようとしている。海人を世に出すために奔走した医官内田守人の「肉体的欲望の閉塞が、精神に飛躍を与え、文学と宗教が栄えるのは昔からの習い」は正に至言である。この言葉の原点に海人があったことをわれわれは改めて銘記したい。



## トロイ慕情

吉南 小林 憲治

「世界の遺跡遺産は？」と聞かれると、アステカ、マチュピチュ、モアイ、ボロブドゥール、アンコールワット、アジャンタ・エローラ、万里長城、兵馬俑、莫高窟、バーミヤン、パルテノン、コロッセオ、ピラミッド・テーベ、ストーンヘンジ・・・と、月並みな即答しかできない私だが、この中に「トロイ」は外せない、と言うこだわりがある。

理由はいろいろあるが最大理由は、ギリシャ神話を基とした「イリアス」、「オデュッセア」が伝説的フィクションとして辿った 3000 年の眠りから覚めた経緯にある。

トロイ発見は、ドイツの宣教師の子が幼時に見た「トロイ落城の挿絵」から始まる。このハインリッヒ・シュリーマン少年は、波乱に富んだ半生を経た後、独学の考古学者として 1871 年にトロイのヒサルルックの丘に発掘の鍬を打ち込んだ。かくて、吟遊詩人ホメロスの詠う英雄伝説叙事詩「イリアス」は実在の物語として蘇ったのである。

私は 1997 年 7 月 2 日、念願のヒサルルックの丘に立った。そこには、無残な石塁と無造作に散在する建造石材の数々、そして、雑草の蔓延る掘り返された窪地・・・そのすべては野晒し状態にあり、感動と驚愕が共生する。まさに「夏草や兵共が夢の跡」である。

トロイ平野の青い絨毯、その遙か先にダーダネルス海峡の紺青、そして、雑草の中に咲く可憐な草花が、ひととき、一服の涼となって心を和ませてくれた。

シュリーマンのトロイ発見は賛辞に値するが、今日の系統的考古学から見れば発掘手段があまりにも幼稚、かつ、非科学的だった。しかも、彼の目的は財宝目当てでもあったから遺跡考証はわずかで、考古学的に無残な結果を残したのは残念である。

シュリーマン以後の研究によれば、トロイの丘

には第一都市から第九都市までの複合遺跡の長い歴史推移があり、トロイ戦争はその第六～第七都市に位置している。しかも、彼の掘り当てた「プリアモスの財宝」は、実は第二都市層からの出土品であった。

その功罪論はさて置き、シュリーマンの功績はなんと言っても「トロイ城砦の位置選定」にある。それまで想定された大方のトロイの場所は、「イリアス」から割り出された「ブナルバシ丘陵」と言うのが主流をなしていた。

シュリーマンは初めてブナルバシに着いた時のことを、「広くて海からあまり遠く隔たりすぎているように思えた」と、自伝に書き残している。ブナルバシは海から 8 マイル、ヒサルルックは 3 マイルである。

海拔 50 メートル足らずの城址の丘に立ってトロイ平野を見下ろすと、肥沃な地平線の彼方にダーダネルス海峡が線状に見受けられる。長い年月の間にトロイ平野は、スカマンデル、シモイスの両川の堆積作用により海岸線を沖に追いやったのではないか、したがって、ホメロスの太古では海岸線はヒサルルック近くまで入り江で迫っていた、と想われた。

私の旅は、オプションとは言ってもグループツアーである。急ぎ立てられるような 1 時間足らずの見学では、パトロクロスとヘクトルの死闘場所＝ダルダノス門（イリアス第 16 歌）、アキレウスとヘクトルの死闘の模様＝スカイヤ門（第 22 歌）・・・等、イリアスの詩情を空想しながらゆっくり歴史を楽しむ時間的余裕はなく、後ろ髪を引かれる思いで遺跡を後にした。

ホメロスによると、トロイ戦争はスパルタの女王ヘレナとトロイの王子パリスの不倫に端を発し、その復讐戦として 10 万余のギリシャ合同軍による 10 年の歳月をかけたトロイ包囲戦だった、

とされるが、現在、この不倫の話はフィクションとされる。

古くからトロイは、陸路では「アナトリアの橋」と呼ばれ、海路では黒海⇄エーゲ海の航路の要衝であり、昔からその利権を巡って争いが繰り返された事に疑問の余地はない。

トロイ戦争を想定して見よう。イリアス第二歌では「船は合計 1,200 隻」と詠う。当時の船は 1 隻に 100 人前後が乗れたと言うから、ざっと計算でも 10 数万の将兵になる。もちろん、常時将兵の入れ替えは行われたにしても、果たして、この大軍団が 10 年もの間を長期駐屯し得ただろうか。兵站、例えば糧食一つを取ってみても、駐屯の当地が肥沃なアナトリアとは言え現地調達も困難だったろうし、ギリシャからの海上輸送補給も大変だったろう、と考える。

だから、私は 10 年間に幾度となく繰り返された数次戦争を一纏めにして「トロイ戦争」と言ったのではないかと考える。また、「木馬の話」はフィクションか、実在だったとしても主神ポセイドンへの戦捷奉納品であって城壁破壊槌に使用されたのではなく、したがってトロイ落城の直接原因は地震による城郭崩壊によるものであったのだろう。

日本神話の天孫降臨、海幸山幸、天岩戸、金鷄・八咫鳥、出雲国引、八岐大蛇・・・等でも現地で考証すると意外に現実味に即した話になり得る。イリアス、オディッセイも、ゆっくり現地考証すれば現実感が得られるのではないかとトロイ旅行以来、思い続けた 5 年間であった。

経年とともに「トロイへの情熱」は薄らぎつつあった今年の春の事である。息子が「最近もとても感動した本である。読むように」と、プレスフィールド著（三宅真理訳）“炎の門”を手渡してくれた。本の内容は、BC480 年、ペルシャ軍ギリシャ遠征時に於けるスパルタ王クセルクス率いる寡兵のテルモピュライ玉砕戦の話である。

日本が、玉砕戦を常套手段にしかできなかった第二次世界大戦の戦中派である私が興味を寄せていた話である。一気に読み終わった時、何故かこの話の彼方にトロイへの想いが沸々と蘇った。

トロイへもう一度行って見たい。そして、ダーダネルス海峡の港町チャナッカールでは汐の香りのする安宿に逗留してトロイ詣でを繰り返し、トロイ攻防の闘いの声を想定しながら「イリアス」を現地で空想してみたい、と熱望する今日この頃である。



## 鹿島槍ヶ岳

下関 原 八洲雄

長野県下は、北アルプス。その北部に位置する山々の中に、後立山連峰といわれる山波があります。その中でも、鹿島槍ヶ岳は、その容姿はもちろん、歩いてみても周辺の山にくらべて歩きがいのある堂々とした山です。

その昔、平安時代から、昭和の初めまで、立山信仰に支えられた信者さん達から眺めて、立山の後(東、南)にあって、槍のように見えた山、それで槍ヶ岳という立派な名前をもらった山なのです。ところが実際は、北と南に、それぞれ峰を持つ秀麗な双耳峰です。

(写真 1)

2002 年 5 月連休、残雪の鹿島槍を遠見尾根のくぐりから眺めて見たい一心で、私たち総勢 5 人が出かけました。夏山と違い、大糸線白馬駅は静かで、登山客は私たちだけでした。もちろん、新宿や大阪からの夜行寝台特急は、私たちが白馬駅に着く 2 時間前にそれぞれ到着してしまっています。(写真 2)

早速登山届を書きこむ段になって、メンバーの年齢が、私の気持ちに少しひかかりました。私が 64 歳、さらに 65 歳、60 歳が 2 人、53 歳が 1 人の 5 人。「おまえたちは、年齢オーバーじゃないか」と注意されないか。かつて、ゴルフでは「おまえたちは、ハンディオーバーだろうが」と厳しく叱られたことがあったと、その場面が頭をよぎります。昭和も 40 年頃のことでしたでしょう。

八方尾根は、登るのに楽な尾根です。ケーブル 1 回、さらにリフト 2 回を乗りついでに登山です。

3 時間もあれば山頂の小屋に着きます。今回は雨の中の登山となりました。残雪を歩いているとき、一つがいの雷鳥を目にすることが出来ました。白黒まだら、厳しい冬をのりきったばかりで、2 羽共に体も細く、これから自分たちのテリトリーを作ろうとしているさまは私たちを楽しませてくれます。

雨の白馬駅には、ここちよい思い出があります。それは 1988 年 7 月下旬です。梅雨明けを待って出てきた、白馬岳登山でしたが、松本駅を

発つ時は大変な雨でした。それでも、ゆっくり列車で 2 時間かけ、白馬駅に着いたときには、小雨となっていました。「これぐらいの雨なら、雪渓は十分登れる」との宿の主人の言葉に励まされての山行となったのでした。当時 80 歳であった父の詩二句。



写真 1 1982 年 8 月 八峰よりの左北峰、右南峰

土砂降りの 松本を立ち 安曇野の  
白馬に行けば 夕陽輝く  
白馬より 雲倉を経て 朝日岳  
何時しか親し 土佐の女と

八方尾根を登って、唐松岳から五竜岳、鹿島槍ヶ岳を経て針ノ木岳への縦走は、1982 年の 8 月、1991 年の 7 月下旬と歩いておりますが、さらに 2002 年の 8 月同じコースを歩く予定にしております。

縦走の苦しさから、ときはなされるのに、10 年の歳月が必要なのかと思われます。10 年たつ

と、楽しい思い出だけが残るようです。

今年の夏もなにかがなばって、八峰(ハチミネ)キレットを通る時に目にする、おびただしい数で飛び交う、岩ツバメの羽音を耳にした。また黒部湖をへだてて、薄いカーテン越しに、立山、剣連峰を右手に、遠く左手に大きな浅間山、その噴煙をも目にして、残り少なくなっている、針ノ木の雪溪をおりたいものと思っています。

40 年以上前、針ノ木の雪溪を重い荷物を背負って登り、針ノ木岳から南へ笠ヶ岳まで、途中雲ノ平を遊び、槍ヶ岳を往復したこと、さらに 20 年前、10 年前もさほど雪溪が少なくなっただとは思いませんでした。

しかし、2001 年の 8 月、烏帽子岳から船窪岳、針ノ木を歩きました。この区間は北アルプスではもっとも人の少ない縦走路です。

このとき感じたのは、これは最早雪溪ではない、残雪にすぎないのではとの思いでした。

20 年前までは大きな雪溪でしたが、ほぼ 3 分の 1 程度の貧弱さで、北アルプス三大雪溪といわれたころの面影は最早ありません。



写真 2 八方池で左より鹿島 五滝 唐松岳  
左より 松村 原 高田 吉田 西明の各氏

50 歳台なかばぐらいまでは、地図上の予定時間の 0.7 掛もあれば充分だったのですが、1.0 を必要とするようになり、さらに最近では 1.3 掛の時間があってもどうかな、という状態です。それでも小さな花々や、山の動物に励まされて歩いております。

## 秋 に

原  
晴  
朗

温泉の底緑樹ゆらして秋の風

老の憂愁旋風に秋の陽と消ゆ

秋草の足觸れなむとしてリフト青空へ

蜻蛉群るる野外チャペルに陽がぬるむ

秋蜻蛉ホテルの庭静寂の空間

ス、キの浪に能面の列見えかくれ

綾線に半月浮かしアルプスは秋

友やつれしも秋の柿尚青し

引水澄み紅茶一椀秋が来る

杉木立維新の道に風秋送る

## “ふじ”を探ねて

下関 織田 登

平成 14 年の春は例年になく暖かくて、桜の開花も各地で数日から 10 日近くも早咲きした為、有名桜の観桜の機会を逸してしまった。というのは 4 月 20 日に或る会の幹事を引き受けていたので留守が出来ず、残念ながら本年の桜見物はあきらめていた。

そんな時、本屋の旅コーナーで見ていた雑誌に「フジ」の花の名所を紹介している頁があって、日本一の「藤」の庭園、の見出しで、栃木県の足利市にあるフラワーパークを報じていた。家に帰って『日本の天然記念物』（講談社）をひっぱり出して「つる性樹木の頁」を調べてみた。

福岡県八女郡黒木町の「黒木のフジ」は一度見学した事があり、樹齢 600 年とかで見事な花房だった。近くでは二日市の武蔵寺や、八幡近郊の吉祥寺などもそれなりに見ごたえがあった。

頁を追っているうち、埼玉県春日部市牛島に「牛島のフジ」が樹齢 1200 年で、昭和 30 年 8 月 20 日、国の特別天然記念物に指定されているのが目にとまった。

足利市と春日部市、近いじゃないか。なら、両方見学しよう、と現地に電話をしてみたら 4 月 20 日過ぎなら共に見頃ですよ、との確認をとった。こうして 4 月 20 日無事会の世話を済ませて、翌 4 月 21 日（日）下関駅発午後 9 時 5 分、寝台特急「はやぶさ」に乗車。

4 月 22 日（月）午前 6 時 53 分名古屋駅着、下車、上り新幹線ホームに移動、ホームで弁当を買い、午前 7 時 5 分発ひかり 200 号に乗車。まず朝食。空は曇りだが、あちこち青空が見え、時に陽ざしがある。午前 8 時 56 分東京駅着、在来線乗車口に移動。

3 番線ホームが京浜東北線の大宮方面行きのホームになっているので通路の反対側にあるコインロッカーに不急の荷物を預け、身軽になって 3

番ホームへの階段を上る。30 分たらずで大宮駅についたので下車。

改札口側<sup>そば</sup>の精算所で精算を済ませ東武鉄道野田線の柏行き電車<sup>かしわ</sup>に乗車。この路線初めてなので沿線の風景が珍しい。28 分で春日部市にある「藤の牛島」駅着。下車。車を頼んで天然記念物のフジのある所まで、そして見物がすんだら市内見学をして春日部駅まで、と頼み乗車。天気は曇り勝だが雨の心配はなさそうだ。

3～4 分で藤花園に到着。入園料 1,000 円也を払って入る。入口から見て右側に美しいフジ紫の花色をみせ花房は長いもので 2 メートルは越えていそうな美形。樹は根本から数本に分岐して藤棚の面積は 700 平方メートルとか。同じようなのが園内に 3 か所ある。天然記念物にふさわしい貫禄充分。山藤に似ているが、ツルは右巻きで無毛である。園芸品種としては日本一であると折紙づきだ。聞いたところによると、埼玉県にはフジの名所が多いという。県の天然記念物に指定されているフジの名木<sup>ひさいず</sup>としては、久伊豆神社<sup>こしがやし</sup>（越谷市）、青葉園（大宮市）、骨波田長泉寺<sup>こっばだ</sup>（児玉郡児玉町）、菖蒲神社（南埼玉郡菖蒲町）などがあるが、やはり群を抜いたみごとなフジは牛島のフジという。たっぷりと鑑賞したあと、春日部市はフジで町おこしをしているというので、市内を車でまわってみると、いたる所で藤棚を目にするが、春日部駅西口から一直線に続く“ふじ通”は先が見えないほどで総延長は約 1 キロメートル、昭和 54、55 年度の区画整理事業の一環として植えられた藤の木の本数は約 220 本とか。何年か先、このまちはフジの棚でうまってしまうのでは。

春日部駅から東武鉄道の伊勢崎線に乗車して栃木県の足利市にあるフラワーパーク見学に向う。沿線には館林・・・江戸時代館林藩がおか

れ 1661 ～ 80 年には後の五代将軍徳川綱吉が藩主であった。手前の茂林前は近くにある曹洞宗の寺、茂林寺は山号を青竜山と云い、おとぎ話で有名な分福茶釜の伝説で知られ、境内には童話作家巖谷小波のぶんぶく茶釜童謡碑がある、など歴史を偲ばせる場所がたくさんあるのも楽しい。48 分で足利市駅着、下車。

駅を出ると八重桜に似た植物が美しい花をつけ只今満開中。駅前道路の向かい側にフラワーパークへ行くシャトルバスが停まっていた。しばらくして見学者が全員乗り込んだところで出発、車は市街地を出て両毛線の富田方面に向かい走ること約 20 分、フラワーパークに到着、下車。

駐車場前の道路を渡り、右側に並ぶ建物の裏側に出るとパークの入口がある。入場料 700 円也を払い中にはいと左側に憩い場があって、注文すれば飲食ができる。わきを通してガラス張りになっている建物のショッピングハウスにはいととお土産品やご当地産の農産物など所狭しと、並んでいる様は壮観だ。

一通り見学して裏のドアを出るとフジの花の饗宴が待ちぶせしている。日本一のフジの庭園は 83,000 平方メートルで、園内には約 180 本のフジが咲き競っている。樹齢 130 年を超える藤棚が 4 つあり、大きいもので 300 畳分にも及ぶとか。花房 160 cm 以上で足利市の天然記念物と重要文化財に指定されている。樹齢 70 年以上の庭木作りのうすべにフジ、そして気品と香に満ちた長さ 80 メートルに渡る白フジのトンネルは圧巻だ。同時に咲き競う樹齢 80 年以上を超えるピンクと白のクルメツツジ。ただいま全庭園競っての美の競演といったところだ。

見学者は思いおもいのグループで、あちこちで記念の撮影をしている。紫色の花の連なりが風に揺れる様子は、典雅で、王朝人に愛でられた。

『清少納言は「枕草子」の中に「藤の花は房が長く紫色あざやかなほど見応えがある」と書いているし、紫式部は「源氏物語」で、もっとも重要な女性に藤壺の宮、紫の上、など、フジやフジの

色である紫にちなんだ名前を付している。冠位十二階の中で最上位の色が紫、王朝時代を築いた藤原一門の家紋がフジ、ということからも、高貴な色を存分に連ねて咲くフジの花は特別な思いがかけられているのだろう(文献より)。

ちなみに、この町は足利氏発祥の地であり、掘り起こせばぞくぞくと歴史の泉が湧いてきそう。ちょっと目先が変わった楽しい“フジ”の見学の旅であった。

くたびれて 宿ころや 藤の花・・・  
芭蕉

(文献省略)



埼玉県春日部市「牛島の藤」  
国の天然記念物前にて



## 移動採血車

徳山 徳長 雄幸

本年 3 月、70 歳になるのを機に、昨年の暮、現役を引退した。むろん、やや早いかなあという思いはあったが、家内の引退勧告に従ったわけである。

以後、ガーデニング(?)をする傍らフリーターをしている。といっても医師会費(3 号会員ではあるが)や健康保険料それに税金等は納めているので、社会に対しては、まだ迷惑をおかけしていないはずである。

フリーターとしての仕事に山口県赤十字血液センターの移動採血車に乗せてもらっている。おかげで新しい発見があり、新鮮な生き甲斐を感じている。

従来、何ら不自由もなく輸血や血液製剤を使用してきたが、そのかげには血液センターの大変なご苦労のあることを知った。

「ありがとうございます」「ご苦労さまでした」「お願いします」。これは一人の献血者に対して複数の職員が複数回繰り返す言葉である。この言葉には献血者が年々減っていることに対する危機感を感じさせる“ひびき”がある。現在のところ、献血者は年間 600 万人を割っているといわれ、国内自給に要する 1000 万人には、ほど遠い数字である。

採血に際しては献血者の氏名、血液型等の確認は頻回に行っている。受付ではむろんのことだが血液型、比重を調べる看護師によっても改めて氏名の確認、献血の量(200ml と 400ml の場合がある)、本人の申告した血液型を確認する。そして現場で行った血液型検査の結果をみて、みたび確認する。

採血時にも担当の看護師により氏名、血液型、そして献血量を確認する。ダブルチェックどころ

か 3 回も 4 回も確認するという念の入れようである。臨床の現場でもこの慎重な確認体制をとりいれるとよい。

「献血の大切さはだれもが分かっている。しかし腕を出して『どうぞ』という人はそれほど多くはいませんよ」。現場の声である。

移動採血車が出る前日、その出先で度々協力してくれる方々には電話で連絡をしてお願ひしているらしい。また知人がいると職員がマイカーで送り迎えをすることもあり、現場の努力は並大抵ではない。

献血は各個人の善意に支えられているため、現場にいると限られた貴重な資源であることを痛感させられる。善意があり、それをいただく努力と苦労があつてこそ、何ら不自由なく輸血をし、血液製剤を使っているわけである。

輸血や血液製剤使用の基本原則は必要最小限にとどめることである。栄養剤の代りに使うようなものではない。血液製剤のうちグロブリンの自給率は 7 割、アルブミンのそれは 3 割といわれる。

ことのついでに申し上げるが、新鮮凍結血漿(FFP)や加熱人血漿蛋白(PPF)の使用適応を混同されている医療機関がある。“血液製剤の使用指針”をよく読んで適正な使用に努めたいものである。

今国会に提出された血液基本法にも使い過ぎが批判されてきた血液製剤の適正使用が盛り込まれているという。

いずれにしろ献血の現場には人様の善意とそれをいただく職員の努力と苦労のあることを忘れないでいただきたい。

## 玉乃世履を追いかけて 4

岩国 吉岡 達生

これまで、「山口県医師会報」に「玉乃世履を追いかけて」と題して、3 回報告した(①玉乃世履の研究史、②略伝、③陸奥宗光を裁く)。今回は、1. 玉乃と幕末の岩国と 2. 玉乃の学問・人柄について概説したい。

### 玉乃世履と幕末の岩国

幕末の岩国を、幕末の長州(全体)の観点で文久年間から解説する。萩本藩・毛利宗家は、文久 2 年に攘夷を国是と決定した。天皇・公卿に運動して、京都の朝廷に大きな影響力をもった。

まさに文久 3 年の政治情勢は、本家と分家の緊密な連携を必要としていた。文久 3 年 2 月 7 日に、毛利慶親が京都からの帰途に、岩国に寄り、吉川経幹と会談した。今後、防長内では吉川家を末家(つまり支藩の待遇)とする。対立関係の幕府とは、追って周旋するので、しばらく猶予ありたいと申し添えた。この時から、毛利宗家と緊密な連携のもと、岩国藩・吉川家は萩本藩と運命をともにすることとなる。もちろん、萩本藩の正義党と俗論党の争いの影響を受けながらも、岩国藩の主張もした。毛利宗家の決定には、四支藩(長府藩・岩国藩・徳山藩・清末藩)全体が従った。

文久 3 年ころから岩国藩では、思想的に陽明学派が台頭し、朱子学派に対抗した。岩国藩の内部では、門閥階級が藩の中枢をにぎり、いわゆる守旧派(佐幕派・朱子学派)を形成している。改革派は、陽明学派で毛利宗家側にたつ。一般的に、学問や実務能力に問題があっても、江戸時代は家柄・家格重視でお役目につく。岩国藩も例外ではない。幕末には、全国的に実務能力重視の人材登用に迫られる。

玉乃は、文久 3 年以後の幕末を儒学(陽明学)を基礎に、洋学を主として事にあたった。いわゆ

る「和魂洋才」である。文久 3 年の「8 月 18 日の政変」後、岩国藩において玉乃が改革派として主張したことが、守旧派に非難され、養老館教授方(助教)と兵局方などを罷免される(同年 9 月 1 日)。10 年前の嘉永 6 年 12 月に、京都で吉田松陰と語り合ったとおり、毛利宗家を輔翼すべきことを説いた。

元治元年 5 月に、用人格で坂上撫育方(代官に相当)を命ぜられ、禁門の変ののち 9 月に赴任した。戦時を想定して、藩主みずからの抜擢人事であろう。実務能力を重視した人材登用である。坂上に在任中は、民政と軍事に治績をあげた。

慶応 2 年に、第二次長州征伐(四境の役)が起きる。岩国藩は、萩本藩とともに芸州口の戦い(山間道と海岸道)を担った。玉乃は、農兵の北門団を率いて釜ヶ原に駐屯した(山間道)。防長領境を越えて幕軍を進入させなかったことから、幕府側の敗北といってよい。

戦後、岩国では四境の役での実戦経験から、「門閥打破、人材登用、先例旧格を用いるな」が提唱された。実際行動として、10 月に東沢瀉(陽明学派の儒者)らが塾生を鼓舞して、必死組の設立を図る。11 月 11 日に必死組(のちの精義隊)は創立許可されたが、隊士の強引さや粗暴であったことの責任をとり、東と栗栖平次郎(東の門人)が柱島に流罪となった。これを契機として、岩国藩の兵制改革が行われ、精義隊・日新隊・建尚隊・敬威隊の 4 隊が結成された。たとえば、日新隊は、門閥階級の総督をおくが、実質的には軍監・参謀が実務能力を発揮したことであろう。彼らは玉乃の門下生が中心で、儒学(陽明学)を基礎に洋学を主とする。時務に適する改進黨を唱えて、洋式銃陣にもっとも優れていた。玉乃は、11 月に用人役(参政に相当)で御蔵元の仕置方を命ぜられる。固辞するが、その命を得ず。無能な門閥階級

が、なお中枢にいたことが、固辞の一つの理由であろう。

慶応 3 年 1 月に北門団の正覚寺騒動により、坂上撫育方を罷免され、2 月に岩国にもどる。用人役で御蔵元の仕置方の命は、そのまま。同年 3 月に、藩主の吉川経幹が死去する。玉乃は、岩国藩内の党論（人材登用問題）の調停を遺言された。同年 6 月に御蔵元の仕置方を断ったが、用人役はそのままで藩政にあたる。幼君の経健を、集団指導体制の一員として支えたことであろう。戊辰の役には、慶応 3 年 11 月まず日新隊が、萩本藩の部隊とともに出動した。なお、玉乃は明治元年 7 月に岩国藩公務人（のち公議人）を命ぜられ、10 月に京都に赴任する。明治元年 10 月から 11 月まで岩国藩公議人として京都で活動し、明治 2 年 1 月に東京で明治新政府に初めて官吏として入る。明治 4 年 7 月の廃藩までは、岩国藩からの出向である。

## 玉乃世履の思想・学問

### [江戸末期]

江戸期の学問といえば、中国から入った儒学であった。いわば哲学で、単に知的な面のみでなく、究極の目的は人格をみがき徳を身につけることである。それに対して、洋学は西洋の学問で、科学である。

玉乃の儒学は、はじめ徂徠学（古文辞学、現代の人文科学に近い）で、のち朱子学となる。二宮錦水の影響であろう。弘化・嘉永年間に岩国藩校・養老館の儒学が朱子学となるのに貢献したものと考える。また、浪人中の嘉永 2 年に僧月性と交遊し、儒学（朱子学）とともに、勤王論・海防論を学ぶ。

嘉永年間に京都に遊学した。帰国した安政元年より、塩谷処とともに岩国藩を代表する思想家であろう。玉乃九華・二宮錦水の後継者である。洋学は、三島中洲・吉田松陰の影響もあり安政元年ころから学ぶ。具体的には、原語で読むのではなく、翻訳された漢籍で学んだ。

さらに、儒学は東沢瀉の影響もあり万延元年・文久元年ころから陽明学へと変化した。文久 3 年から元治・慶応までの幕末の動乱期を、玉乃は

儒学（陽明学）を基礎とし、洋学を主として事に当たった。いわゆる「和魂洋才」であろう。

安政元年に京都留学から帰国後は、消閑の詩文は廃す。とくに作った漢文の中から、明確な動機があり贈った相手がわかるものを、以下にいくつかあげる。

安政元年 6 月？の「東白沙の江都に遊学するを送るの序」、安政 4 年春？に福山の江木鰐水への「江木三鹿に与ふる書」、安政 4 年 1 月？の南部五竹への「藩老某君の熊本に遊学するを送るの序」、文久 2 年 10 月の「今田百里墓誌銘」、長谷川禹錫『柳橋文集』の「跋」、同年 12 月の「長谷川禹錫墓誌銘」、慶応元年 11 月の「土屋道寿墓誌銘」、9 月「岩本盛俊墓誌」などがある。なお、明治元年 8 月に坂上の柳原孝十郎への「坂上撫育の一事を記す」がある。

### [明治前期]

明治新政府に入ってから儒学（陽明学）を基礎とするが、洋学中心である。明治 2 年 1 月に会津の若松表民政取締を命ぜられ、はじめて明治新政府の官吏となる。同年 5 月より裁判官の道に入り、明治 4 年 8 月に創設直後の司法省に司法中判事として入省する。実務の中で法律学の学識を積んだ。司法卿の江藤新平（明治 5 年 4 月～6 年 4 月）のもとに、民法・（民事）訴訟法・裁判所法など、仏法に範をもとめた法典編纂に関係した。具体的には、「司法職務定制」（明治 5 年 8 月 3 日に制定）、「民法仮法則」（明治 6 年 3 月 10 日に完成）、（民事）「訴訟法略則」（明治 6 年 7 月 20 日に完成）である。

さらに、欧米流の近代法を、ボアソナードやブスケが講義する五法の会議（「訴訟法会議」「民法会議」「治罪法会議」「刑法会議」「商法会議」、すべて司法省官吏を対象、明治 7～9 年）などで、法典編纂の準備として学び、その後は実際の法典編纂に委員として参加した（民法・民事訴訟法・治罪法・陸軍刑法・海軍刑法）。東京大学の法学部講師を兼任して、明治 12 年度から 17 年度まで、「日本現行法律 民事」などを講じた。

晩年の明治 10 年ころより、再び漢詩文・書は作った。法律雑誌の創刊号に漢文の「序」を寄せている。たとえば、雑誌「明法志林」第一号と「法

学協会雑誌」第一号の巻頭に、漢文の「序」を撰している(それぞれ明治 14 年 2 月撰、明治 17 年 3 月撰)。また、法律書にも漢文の「序・跋」を寄せている。しかも、しばしば活字ではなく本人の書(影印)で掲載されている。「序・跋」を寄せた法律書を列挙すると、①今村信行『民事必携』(「叙」を撰ならびに書す、明治 12 年 6 月)、②田中知邦・田中稲人編纂『現行民事成文律類纂』第一編(上・下、下巻に「跋」を撰、相楽頼善の書—明治 12 年 9 月—)、③村田保『治罪法注釈』(「叙」を撰ならびに書す、明治 13 年 7 月下旬)、④福鎌芳隆『治罪法比鑑』(「序」を撰ならびに書す、明治 14 年 8 月)、⑤磯部四郎講義『仏国民法契約篇講義』(「序」を撰ならびに書す、明治 17 年 11 月上旬)などである。

明治 11 年 1 月、中村正直の同人社が法律講習会を開業した際に「同人社法律講集會開業祝詞」、明治 16 年 7 月の専修学校卒業式に「祝詞」(漢字仮名混じり文)を撰している。

法律関係以外の漢詩文の中から、明確な動機があり贈った相手がわかるものを、以下にいくつかあげる。

明治 9 年 5 月、毛利敬親の五年祭に漢詩を寄せる。明治 11 年 4 月、吉川経幹の十年祭に漢詩・漢文をよせている。周布政之助の 17 回忌に漢詩を寄せている(明治 13 年 11 月?)。岩国の坂本格と粟屋景福に墓誌銘を撰している(それぞれ明治 12 年 6 月、明治 18 年 12 月上旬)。

明治 13 年冬に東京の江木鰐水(備後福山出身)に七十の賀詩、明治 18 年 12 月上旬に岩国の大草小雲に還暦の賀詩をおくる。

漢詩文集の序・跋では、三島中洲『霞浦遊藻』に「霞浦遊藻序」を撰す(明治 9 年 5 月、関雪江の書)。長三洲書者『韻華帖』に「跋」を撰並びに書す(明治 13 年 5 月)。

## 玉乃世履の人となり・人柄

①南方一枝「五龍先生履歴」(1889 年撰、1890～1891 年「探溟」第 1～3 号—岩国の雑誌—)、②三島毅(中洲)「大審院長従三位勲二等玉乃君神道碑」(1889 年撰)、③藤田傑『巖国沿革誌 傑特士五』(自筆稿本、推定 1917 年、

岩国徴古館蔵)により、まとめる。

幼くして学を好む。かたわら武技を学び、このんで笛を吹く。遊芸はなさず、囲碁を少し玩ぶ。身体は肥満。性格は剛毅果敢で、眼光は人を射る。態度・物腰は礼儀正しく、言語は質実で少しも虚飾なし。物事を処理するのに細心の注意を払う。

明治時代に大審院に勤務していたときの評は、人に接して尊大ではなく、身分で態度を変えない。身は頭職にあっても、勉学は超人的である。子供のときから老年まで同様に、人力車上やトイレでも必ず書物を読んでいた。大審院の仕事は、書類が山積みされていても、流れるように読み進み処理する。なお残った書類は、自宅にもって帰り(宅調)、しばしば朝まで調べていた。部下が質問すれば、答えは明瞭で詳しく、必ず図示する。清廉潔白で、「請託・贈遺を謝絶す」と大書して掲示した。



## ニジェールから来たアドさん

下松 岩本 功

「イナ・クワナ(おはよう)」で一日が始まり、「セイ・アンジュマ(また明日)」とハウサ語で終わる 5 か月間を経験しました。これは初めてのイスラム世界の印象記です。

終わってみれば W 杯はブラジルの優勝でしたが、カメルーン、セネガルやナイジェリアの西アフリカ勢の頑張りは私に元気を与えてくれました。昔エチオピアに 1 年間住んだり、その後も何回かアフリカ訪問しましたが、西アフリカには一度も行ったことがありませんでしたので、とても興味がありました。私の回りでは西アフリカを知る人は少なく、国土の大半がサハラ砂漠となる西アフリカ内陸国のニジェールとなるともうほとんど知る人はいません。「ニジェールはどこにあるの?」とか「ニジェールの宗教は何?」などに答えていた 5 か月間を W 杯の熱狂の中で思い出す毎日でした。一昨年、県内からニジェールに 2 年間派遣されていた青年海外協力隊員(栄養士)のカウンターパートとしてムスタファ・アドさんという 39 歳の男性栄養士が昨年 8 月から 5 か月間ほど周南記念病院、老健「ふくしの里」そして特養「ほしのさと」での研修をしました。私が県の「協力隊を育てる会」に関係しているために引き受けた次第です。ニジェールにはまだ 11 名しか栄養士がいないということで、研修プランを作成するに当たってお互いの医療情報を交換することから始めました。あちらはフランス語、現地のハウサ語そして広島で 2 か月間研修した日本語だけで、こちらは英語・フランス語のミックスでしたが、何とか目的を達成できて安心しました。ニジェール国土は日本の 3.4 倍あり、国民は熱心なイスラム教徒です。人口は 1,100 万人ぐらいで砂漠化が進んでいます。公用語はフランス語、現地語はハウサ語です。病院や特養の栄養士さん達はフランス語の辞書を片手に悪戦苦闘の毎日で

した。しかし、帰国時にはしっかりと研修目的を達成していた事には、さすが同業者だなあと妙に感心しました。研修中にアドさんがつぶやくように言った 2 つの言葉が、最後まで気になりました。それは「どうして毎日お祈りをしないのか?」と「どうして日本人は出会っても知らん顔をしているのか?」でした。経済発展や科学進歩に依存してきたわれわれは、とても精神的には貧しい姿になっているのだと反省させられました。アドさんが研修に入って 1 か月目にアメリカでの同時多発テロがありました。彼はとても気にしていたようでした。確かに周りには白い目があったのは事実でした。個人的にはとても人なつこいイスラムの人達ですが、何がああの行動に駆り立てたのでしょうか。

彼はイスラム教のイマームといって集団礼拝時の導師のため 1 日 5 回のお祈りを欠かせませんでした。午前 2 回、午後 3 回のお祈りです。いつ遊び、いつ仕事をするのかと思いましたが、ちゃんと時計のごとく時間がくればお祈りしていました。しかし、観光地などに連れて行っていた場合には、人目のつかない場所を探すのに苦労しました。そして彼が帰国するころにはこ



防寒衣(7m のターバン)のアドさんと

ちらの体内時計もすっかりお祈り時間に調整されていたのには驚きました。傍で見るほど本人には大変ではなかったのでしょう。夜遅くまで3か国語を駆使してイスラム教、キリスト教そして仏教を語り合った事はいい思い出となりました。

#### 食事に誘うのもいろいろ

と気を使いました。豚肉とアルコールは一切口にしませんので、ビールが好きな私にとっては時々つらく感じる事がありました。「聖なる月」とか「ラマダン」では他人がアルコールを飲むのも見てはいけないようでした。彼はとても厳しく戒律を守っていましたが、やはり若いイスラム教徒の中にはお祈りは簡略化するとか、アルコールもたしなむ者もいると嘆いていました。「ニジェールに行けばビール飲めるか」と聞くと「ホテルならOKだ。自分の家に来た時は我慢してくれ」でした。ニジェールに行けばしっかり休肝日が取れるかも知れません。「ラマダン」でのアドさんの1か月間を目のあたりにして、「我慢する」という言葉を忘れていた自分がとても恥ずかしくなりましたが、暑いこの時期に目にするビヤガーデンの「飲み放題、食い放題」はやっぱり魅力的です。

日本では栄養士さんの就職がままならぬという状況ですが、ニジェールには医師と看護師の養成機関はありますが、栄養士は養成されておらず、彼はコンゴ共和国で資格を取得していました。ニジェールの病院では治療食というような医療状況ではなく、これからは国民の健康増進のために11名しかいない栄養士が頑張るしかないと言っていました。

この状況は日本でも同じような過去であったように記憶しております。アドさんはマラディという所の保健局に勤め、病院ばかりでなく広大な国土の隅々まで啓蒙するためにラジオ放送にも出演しています。これが一番効果的なようです。地方では一生



病院での治療食献立実習

涯、医師に出会うことなく死んでいくこともあり、栄養失調や砂漠に見られる髄膜炎やマラリアなどの感染症などのため、ニジェールの平均寿命は1998年統計で男性47歳、女性50歳となっています。食料は雨季(7月-9月)の米、ミレットやトウモロコシが主食とな

り、野菜は乾季に収穫され、牛肉、羊肉、鶏肉、豚肉そして川魚も手に入りますが、貧困にあえぐ人々の方が多く、1997年の一人あたりのGNPは200米ドルに過ぎません。食材も調理方法も限られた中での栄養確保も大変でしょう。アドさんは日本のスーパーでの品物の多さには目を丸くしていました。そして病院で残飯を捨てるのがどうしても理解できなかったようでした。貧困・食料不足・疫病に悩むアフリカでは当然なことかも知れません。

ニジェールの気温は砂漠近くでは50度以上にもなり肌を刺すような暑さのようです。下松に滞在中に雨が降れば「いい天気ですね」と言っていました。ニジェールでは雨は天からの恵みなのでしょう。しかし、寒さにはやはり弱いようでしたが、今年1月の大雪の日には山間部の雪見に行きましたら、生まれて初めて雪に触り寒さを忘れて子供のようにしゃいでいた姿が忘れられません。

世界中がワールドカップに熱狂している最中に、カナダでサミットがありました。これにアフリカから4首脳が招かれました。アルジェリア、セネガル、ナイジェリアそして南アフリカの大統領です。発表された「アフリカ行動計画」が実りあるものになることを願ってやみません。いつの日かニジェールで元気な子供たちに「イナ・クワナ」と言ってみたいものです。



初めての雪あそび

## 虚像、実像そして偶像

岩国 中川 仁

今年最大のイベントであるサッカー W 杯は韓国、ドイツの大活躍がありましたが終わり、2002 年も残り半分となりました。また、小泉内閣の目玉である行政改革、経済構造改革など論議も盛んですが、日本経済の失速はいまだ好転のきざしは鈍く、史上初の診療報酬のマイナス改定とわれわれ医療界を取り巻く環境は予断を許さない状況になって来ています。

私は大学卒業後は主に形態学、特に細胞診、病理を中心に医療に携わってきましたが、かねがね思ってきた事、考えてきた虚像、実像に偶像もからめてまとめてみました。

小辞林によると実像とは、「光が凸レンズで反射、屈曲して結ぶ像」とあり、また虚像とは「光が凹レンズ、鏡などによって生じる物体の像」とあり、光学的な意味が第一義のようです。また、「偶像とは信仰の対象として、金属、木、神仏にかたどって作った像あるいは、迷信などの対象物」と記載されています。さらに、大辞林によると虚像の第二義として「ある人や物の姿とは異なる他によってつくられたイメージ」とあり、実像の第二義として「地位、肩書きや風評などを離れた、その人や物の本来の姿」と記載されています。

現在の医療の中で実像を扱うとなると、特に細胞診断では喀痰、尿、婦人科領域の細胞診、胃や腸の生検での病理診断、また末梢血液、骨髓のメイ・グレンワルド・ギムザ染色でしょうか。

一般に形態学で扱う実像は、病理組織標本、なかでも一番基本になるのは汎用されているヘマトキシリン・エオシン染色ということになります。ヘマトキシリンは核を青く染め、エオシンは細胞質を赤く染めています。ヘマトキシリンは中央アメリカの木から造られています。スエズ運河の近くにはガテマラ、エルサルバドル、コスタリカ、パナマなどの国がありますが、中でも小さいベ

リーゼ（元英国領ホンジュラス）で採れる豆科の植物でログウッドという木の芯からとれる染色液から造られているようです。

ヘマトキシリンは“血のように赤い木”という言葉だそうで組織を染める方法として、19 世紀半ばには組織学的研究に応用されて今日では病理診断等に応用されています。なお、細胞診ではパパニコロウ染色にも応用されており、俗にヘマトキシリンの木と言われているログウッドは独協医科大学・山田喬教授によりデザインされ、細胞診の診断指導医の印や日本臨床細胞学会の学会のマークにも使われています。ついではありますが、この秋には日本臨床細胞学会秋期大会が会長山大・石原教授のもと 11 月初旬に下関で開催されます。

一方、エオシンはギリシャ神話の中で暁の女神、すなわち暗闇から明るい朝になってくる夜明けの女神 EOS（エーオース）からとられています。女神エーオースが 2 頭立ての馬車に乗って天空の門戸を開いて太陽の光がさっと宇宙に差しこみ、夜明けの空は真っ赤に染まり夜が明けます。

エオシンの液は濃い赤褐色ですが、薄いとき黄色となり、緑色蛍光を発します。女神エーオースが夜明けの空を真っ赤に染める姿を称して eosin と名づけられたようです。

キャノンのオートフォーカス一眼レフカメラ“EOS”は一眼レフカメラのトータル・オートフォーカス・システムとして開発され暁の女神の名にふさわしい高品位カメラとして名づけられたとのこと。最近ではデジカメでも発売されています。なお、eosin は赤インク材料として、また染色材や分析用薬としても用いられています。このヘマトキシリン・エオシン染色は今や病理形態診断には欠かせないほど重要な染色で、病理診断、細胞診では大活躍しているのは言うまでもありません。

物事の認識では、形態認識が虚像であれ実像であれまず最初だと思われます。犬のスライドを見ても、犬を知らないと犬と認識できませんが、犬を良く知っていると、ただ犬というだけではなく、どこの国の産でどの種類に属するか詳しくかつ正確に推定できます。人によっては随分たくさんの情報をひきだせます。実にたった一枚の写真でも引き出せる情報量は無限大だと言う事ができそうです。

形態学という言葉の生みの親はだれでしょう。言葉のルーツを調べてみました。ゲーテであると言う説や、異論もあり、解剖学者 K.F.Burdach が 1800 年に初めてこの言葉を用いたという説もあります。また、ゲーテは 1795 年に次のような短い日記をつけています。

Gingen die Meinigen host. Morphologie Mineralien von Leipzig.  
(家のものは出発した。形態学。ライプツヒからの鉱物。)

単語だけ出てくるものではありませんが、ゲーテが 1800 年以前にこの言葉を使っていたのは確かのようにです。だれが最初に使ったのかはともかくとしても、形態学に重い内容を入れようとした最初の人がゲーテであることは確かのようにです。

形態学を通じて自然にせまる姿や態度を見ると、その膨大な知識の集積にもかかわらず、形態学が何を不得、何を失ってきたのでしょうか。形態学 (Morphologie) という言葉を創った人は不明ですが、ドイツの詩人ゲーテはもっとも早く使った人の一人で重要な意味をこめた最初の人のようです。

飯島宗一氏 (広大、病理名誉教授、広大・名大、元学長) は 1959 年「形態学的生検診断のポイント」の論文で次のように述べています。「一枚の生検組織標本が顕微鏡下に置かれるとき、その標本から引き出さる所見はほとんど無限である。ただ一枚の標本であっても、その細胞学的、組織

学的、病理学的あるいは生物学的所見をあまねく記述し、それらを詳しく論じようとするれば、一冊の本が書けるかもしれない。しかし、通常の形態学的生検診断の場合は、きわめて短時間のうちにそれらはほとんどすべての所見を捨て去り、当面：意味のある：所見を選ぶという作業を果たさなければならない。ここに、志向的選択の過程が介在するのであって、それは一人の人間の脳の動き

と言う意味で主観的であることをまぬがれぬが、恣意的であることは許されない。形態学的診断ないし判断は恣意独断によってどのような奇矯な結論をも導くことができる。しかもひとたび奇矯な意見が提出されると、それに対する純形態学的反証がしばしば困難である

るのが形態学のひとつの性質である。」

たとえば、切片標本でボイルした卵の断面をみて、これを卵と認識し、一方では目玉焼きの状態で見ているのでは同じ細胞を見ているといっても両者にはかなりの隔たりがあるわけです。かつて教をいただいた上司からの年賀状に「ヒトは遠くで見ているのと近くに近づいて交わるのでは大分違うようです」とありましたが、人でも物でも遠くで見ているのと近くで交わるのとは大きな隔たりがあるようです。

標本の方も歴史的には、解剖に始まり大きな手術切除標本から小さな生検標本へと、さらには剥離細胞から穿刺吸引細胞へと材料が小さく、小さくなってきています。免疫染色や遺伝子診断の場合、特定の分子の小さいエピトープや遺伝子の特定の塩基配列をみて、それのみに判断をゆだねてみると樹を見て森を見ないという大違いをする可能性があります。

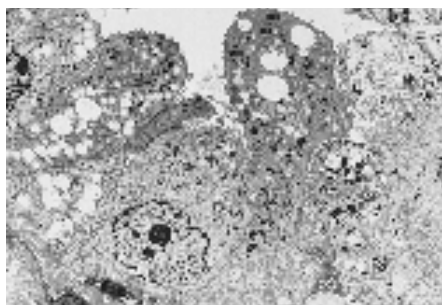
ここで強調したいのは、標本だけ見て診断できるとするのは一種の思い上がりではないかということです。悪性とか良性というのはあくまで患者全体をみて診断しなければならないはずで、標本だけみて診断しているのを切片パソロジーと



いい、ネズミだけの実験をして診断しているのをラッテンパソロジーと言います。

時代は変わり、医療技術が進歩し実像から虚像へと大きく変化して来ているわけですが、医学・医療の使命は生きた患者の診断であり治療であることには変わりはないはずです。画像診断、生理学的診断、生化学診断、病理診断さらに DNA 診断など虚像、実像にかかわらず、医療技術がその使命を忘れず、たえず新しい技術や方法を取り入れていく限り、臨床医にとって頼もしい存在であってほしいと思うのであります。ゲノム解析もほぼ終了したところにポストゲノム時代の病理、臨床検査はどのように変化していくのか興味あるところです。

話は変わりますが、17～8 年前頃、大学に勤務していた梅雨の終わりのころ、夜 10 時すぎに外科から解剖の依頼の電話が鳴り教室にいた当番の大学院生 2 人と私で解剖することになりました。患者は 50 歳前後の男性でした。解剖が終わり臨床医はマクロ解剖の説明が終わり帰って行き、われわれだけになり、私は脊椎骨を電気鋸ストライカーで取り出していました。ところがだれ



かが私の背中中の予防着をひっぱるではありませんか。院生に「おい、引っ張るな、大事なところだ」だれも返事がありません、おかしいと思って振り向くとお腹も胸もがからっぽのライヘが解剖台の上の立とうとしているではありませんか。私と院生の 3 人は腰を抜かさんばかりに驚いて後ずさりしました……。いまでは、同門会等でその当時の院生と会うとなつかしい怖い夏の夜の思い出話となっています。

日々の診療医生活に加え人事、経営問題などの雑務に追われる日となり、ふと研究所での生活や大学での研究室での出来事を振り返ってみると、「研究」という夢は人生最大の道楽であったように思えるようになってきました。

メディカルエッセイや科学論文であろうと、はたまたニューモデルの水着や詩歌の類であろうと、移ろいやすい世人の心を絶えず魅了しつづけることや、風雪に耐えて後世まで永く残る傑作を生み出すことは至難の技と思われます。いずれの世界においても、そこにはたゆまぬ情熱、努力と精進が要求されます。なにか王道や近道、早道など安楽な道程はないのでしょうか。

# 鞍 山

厚狭 岡田 久

70 才を目前にして、人生も僅かとなり、思い切って 13 才迄を過ごした中国東北部（旧満州）鞍山市を訪れ、まずその変貌に驚いた。

戦前人口 15 ～ 6 万の市が今日 200 万に達しようとしている、元来が中国一の鉄鋼都市であったが、市街の発展は素晴らしく、高層建築物の林立、郊外の住宅地の整備、学校教育の充実をはかる諸学校の新設、又高速道路の整備、ちなみに大連より鞍山迄 300K を時速 180K で走り、約 3 時間で到達してしまう。ただご愛嬌なのは、高速道路の路側帯を自転車が走り、人が歩いており、それをだれも咎めない大らかさに感じいました。

すべてが国有地であるため、計画的に物事が進められ易いとの事です。

トンネルもない平坦な所を一直線に走る雄大さに驚きます。

第一の故郷の市街を探索し、駅の近くにあった我が家は、区画整理されており、高層建築物が建ち跡形もありませんでした。通っていた小学校も取り壊され、新築され、片隅に取り残された建物が昔を思い出されます。

匪賊の巢窟で近寄るなどと言われていた市内より東方 15、6K にある霊峰千山脈にも立派な高速道路ができて、戦前行く事ができなかった所に、簡単に車で行く事が出来ました。又その道路脇に、ハイテク工場、大学が林立しており、一地方都市がこのように発展するのであれば、日本の工業はすぐ追い越されるのではないかとおもいます。

中国のパワーには驚かされます。



鞍山駅付近



ラグビーで有名な旧制鞍山中学校  
すでに取り壊し中



鞍山の象徴ラクダ山  
採鉱のためやせ細っている

## おい！羅臼に登るぞ。

宇部 山本 一男

小倉浩二・横山 敬・山本一男で三期の会を開催の最中、突如としての小倉先輩の声で酔いが退いた。「{らうす}?って」「北海道の{らうす}じゃ。標高 800 メートル位だ。(この標高は国後 {クナシリ}島の羅臼山で、北海道の羅臼岳は 1661 メートルで、皇太子ご夫妻が山頂に立たれたことで有名です。この本当の標高を知って結局は登らず眺めただけでした)」。

平成 13 年 8 月 11 日(土)小倉・山本の二人は東京のお台場のグラン・パシフィックホテルで隅田川よりも豪華と言われる花火大会を、知人の高田さんと眺めながら「大志満・花かがり」で気炎を揚げた。

8 月 12 日(日)、一路「中標津空港」に飛んだ。空港から約 1 時間 30 分の貸切?バスで羅臼温泉到着(乗客数 3 人。直線国道 335 号線。行き交う車数は 10 台未滿。ただし、単車数は数知れず、国道沿いの川に無料温泉が湧いているとか)。羅臼昆布のお土産を宅配。「ホテル峰の湯」の夕食は大きな {鱈場蟹(たらばかに)} 丸ごと一匹。蟹肉だけで満腹。(写真 1)

8 月 13 日(月)知床横断道路(国道 334 号)でウトロ(宇登呂)に向かうタクシーの運転手さんから、知床半島巡りはクルーザーに乗ったのが雄大ですよ、との情報でクルーザーに乗船。奇怪な岩肌・海に直接落下する滝・平坦で広大な知床岬最先端など驚嘆の観光でしたが、最大のハイライトは、「やっと見付けた!」なかなか出会えずいらしていた最近だったが、おった、おった」と突然の操舵士の大声にびっくり。「お客さん、そら、そら、左前方に見えるでしょう。今日は本当に恵まれましたね。熊・熊・熊ですよ・熊」。居ました、望遠鏡で米粒大の茶黒色の親子です。「最近熊まで茶髪かよ!」=だれの声でしょう? 大満足。(写真 2)



写真 1 羅臼岳を背景に

知床プリンスホテルの「風なみ季」の食事もある敵でした。小量椀に盛り付けられた定食に、後は自分の好みで小量盛り付けられた好きな海産物主体の小皿を適宜味わうと言う {粹な} 食堂でした。好みで純米大吟醸酒・ワイン・エトセトラ。心地よいほろ酔機嫌でまた温泉にドボリ。「美味しいものをたくさん食って、たっぷり飲めて、温泉に浸かり満足じゃ・寝るぞ」今日も幸せの旅でした。

8 月 14 日(火)国道 244 号線をバスで女満別空港へ。

斜里町・止別・小清水原生花園・涛沸湖を経て約 2 時間後に女満別空港に到着。可愛い YS11 のプロペラ機。「お客様、お隣同士のお席をお取りしましょうね」。異口同音に {いや、毎日一緒



写真 2 熊

じゃけー、窓際の席で、別々。窓際ですよ}。お客さんもまばらで可愛い一人のキャビン・アテンダントさんの声も耳に入らず、前席小倉・後席山本の 2 人は離陸と同時にシャッターを押し続け。大雪山国立公園を上空から眺める景色は格別でした。残雪が重厚に残る大雪山には喚声も揚がりました。支笏湖・洞爺湖の支笏洞爺国立公園上空を経て、内浦湾上空から大沼国定公園を通過して函館空港に。小倉先生のカメラには五稜郭がパッチリと収まっていました。流石、先輩は上手。

函館国際ホテルに到着。

函館 JR 駅前から市内バスで五稜郭に向かう。安政 4 年（1857 年）北辺防備に 7 年の歳月を費やし日本初の洋式城郭。明治元年（1868 年）榎本武揚（たけあき）らの箱館戦争を偲び、一の橋・二の橋・五稜郭公園・裏門橋で引き返す。さてと、正装をして美食探訪へ。

「粋で、小奇麗な、美味しい日本料理」の注文にピッタリの割烹・郷土料理「富茂登（ふもと）」で夕食。美人で小柄な齢 80 歳の女将が石川啄木

の小唄を素晴らしい美声で披露。{高田屋嘉兵衛}の銘の純米大吟醸酒と美味しい鮭の皮や函館ならではの数々の美食の献立をすべて平らげ大満足。

午後 9 時前、ホテルからバスで函館山麓駅着。数十万人の人出とか、大混乱の中函館山ロープウェイで函館町特有の中央が縊れた百万ドルの夜景を満喫しつつ山頂展望ハウスに到着。時間制限の慌しい行程でしたが函館ならではの素晴らしい眺めが印象に残ります。

8 月 15 日（水）タクシーで市内観光。北島三郎出身の

函館北高校前を通りカトリック元町教会・聖ヨハネ教会・函館ハリストス正教会・旧函館区公会堂・旧イギリス領事館・立待岬等を観光し、(写真 3) 美味しい牛乳入りアイスクリームに舌鼓をうち、乗り継ぎを終え、熟睡のうちに山口宇部空港に到着。

十分に生気を取り戻し、明日からの診療に邁進することを 2 人で誓いました。日本のよい医療を行うために、お互いに頑張りましょう。



写真 3 立待岬

## だいたい、いいんじゃない

小野田 播磨 一雄

こんな題名の本(吉本隆明)があった。サッカーの審判なら口が裂けてもいえない言葉だけど、くよくよ悩んでいる患者さんをみると「だいたい、いいんじゃない」と言ってみたい事がある。場合によっては気分がほぐれることもあるだろう。とはいえ、とにかく現代は論理を好む時代である。へ理屈でも筋さえ通っていれば何とかなるが、迂闊にものは言うべきではない。命をあずかる医師が患者に対し「だいたい、いいんじゃない」と診療していたら、また何を言われるかわからない。だけど、ほんとを言えば患者さんの訴えに対し医師は論理的に対応してるわけではないし、法律を意識しながら診療してるわけではない。

同じ言い方でも「わからん、ようわからん」と患者さんの前でつい言うってしまう事があるが、これは案外問題にならない。なぜなら医師は神ではないから「わからん」事も許されるというぐあいにへ理屈も通る。「わからん」という言い方には「能ある鷹は爪を隠す」といった類いの謙遜の意味もある。「わからん」というだけでは、わかっているのか、わかっていないのか、わからんところが日本語のミソである。ただ問題はそこから先にある。「わからん、わからん」と言って実際に治療行為を行った場合、結果が良ければ問題にならないが、悪ければ訴えられる。やはり迂闊に物は言うべきではない。

一方、現代アメリカの医師の間では「First, Do No Harm」という警句があるそうだ。「ハーバートの医師づくり」によればヒポクラテスの誓いにある言葉だという。アメリカでは医学的根拠もないのに下手に患者に手を出すなという意味に使われ、医師の介入がかえって患者に害を及ぼす事があるという自戒の意味で使われているらしい。日本語に訳す必要はないが「ようわからん事(者)は黙っとれ、手を出すな」という事だろう。しか

しアメリカの医師の間で何故こんな当たりまえの事を声高に論じねばならないのだろうか。ヒポクラテス翁はおそらく「医学を過信するな」「医師は傲慢であってはならない」と素朴に諭した筈だが、現代的意味はいささか異なるようだ。その根本には医師と患者の関係の変化がある。現代の医師と患者の関係は互いに利益を得ようとする商いにも譬えられる。その象徴は何ととっても「医は仁術ではなく算術にある」というコピーが有名である。なるほどそうかもしれない。現代は訴訟社会である。医療も例外ではない。患者は自分に不利益な事が生じれば容赦なく医師を訴える。優秀な医師ほど訴えられやすいともいう。医療ミスにからむ訴訟でも、患者が医師を訴えるのは実は患者がその医師を嫌いだからだという。言われてみればもっともだが、身も蓋もない話である。アメリカ医療の現実には訴訟問題が大きな影を落としている。

「Above all, do no harm」他人に害が及ぶかもしれない時、何もせずに見ているだけですごせるだろうか。たしかによかれと思ってした事がかえって裏目に出て、何もしないよりひどい事態を招くことはある。何もしないほうが責任もないかもしれない。しかし、苦しむ患者を前に何もしないでいられるだろうか。おそらく自分でできる最善の努力を果たそうとする、それが医師というものではないか。話の前後は忘れたけれど、学生時代「喉にものを詰まらせて窒息しかかっている人をみたら、気管切開の手技がどうのこうのと考えるより、ナイフで喉を引き裂くことだ」という話を聞いた事がある。もちろん現代では時代錯誤も甚だしい話だ。EBM もへったくれもない時代の話である。しかし、それでもなんというか、医師たる者の血脈を伝える話ではないか。

アメリカの最先端の医療は今や EBM とイン

フォームド・コンセントを基本とする「患者にまかせる医療」を目指しているという。誇り高きアメリカ人にとっては、らしくもない「無謬主義、完璧主義の終焉」というフラッグを掲げてまで「患者に始まり、患者に終わる患者中心の医療」を達成するために悪戦苦闘しているというが、その一

方でアメリカでは最近医師として働き始めた人の約 30%が卒後数年で医師という職業を捨てて転職したという話もある。現実と夢。近い将来、わが国もまたアメリカの現実を目の当りにすることになる。

~~~~~

風船爆弾

岩国 沖井 洋一

太平洋戦争の末期。当時女学生であった私の妹姉は学徒動員、女子挺身隊として、毎日、日本紙をコンニャク糊で貼り合わせて大きな分厚い紙を何枚も何枚も作っていた。紙は貼り合わせて大きな袋にされて気球となる。気球は爆弾をぶら下げて偏西風に乗り、太平洋を超えてアメリカまで行って爆発する。

風船爆弾である。

実際にアメリカ大陸で爆発したのは 1、2 発であったが、小さな山火事を起こし、数人の人が怪我をしたと報道された。われわれは大感激したものである。もちろん、10 万単位の犠牲者を出した東京大空襲や原子爆弾とは比べようもない戦果であったが。

昨年の秋、医師会の議長席にいた私は、会場からのやっかいな発言の処理に、一寸悩んだことがあった。その時、両上腕に筋肉痛のような痛みを感じた。昨夜の飲み屋のカウンターでのママとの腕相撲のせいかな？と思ったが、思い出してみると、腕相撲をしていたのは隣に座っていた腕自慢の剣道剣士であって、私ではなかった。

数日の後、今度は雨の降る日に傘をさして歩いているとき、また腕が痛くなった。相合い傘の隣の女性をかばっているせいかと思って横を見た

が、傘の中は私一人であった。

念のために帰って心電図をとってみると ST がやや低下しているように思われた。

しかし、その後はカウンターで絶世の美女が前に立つことがあっても、箸より重たいビールジョッキを何回も持ち上げることがあっても、明くる日に腕が痛くなることはなかった。

ある日、夜間の救急センターで当直をしていた時のこと。その日の内科の担当は三井先生と松原先生で、2 人とも循環器科の権威であった。救急センターは天下泰平で市民は健康、救急センターを訪れる患者もなく、当直医達は暇で退屈をかこっていた。

私が、先日のカウンターで隣に座っていた剣士の腕相撲や、幻の相合い傘で腕が痛くなったことと心電図の話をする、2 人は眼を見合わせて「それは狭心症かもしれないな」と宣うた。そして、暇で退屈なせいか 2 人がかりで、いろいろと指導、助言をしてくださる。

「心電図を撮り直せ」「ホルター心電図をとれ」「心エコーをやれ」「心筋シンチをやれ」「やはり一番確実なのは心臓カテーテルまでやることだろう」。

「心カテまでやるのなら、もう風船を膨らますことを考えておいたほうが好いであろう」

とうとう、2 人は私の心臓に風船爆弾を仕掛けることを計画してしまった。私には太平洋戦争中の、日本の風船爆弾の成功率が非常に低かったことが思い出された。

それを見透かしたように、2 人は風船による冠動脈拡張の成功率の高いことを説明してくれる。実名は挙げないが、あんな人も、こんな人もと例を挙げて話してくれる。なるほど、その説明で想像される人物は、風船どころか Condom でも膨らませそうな人である。

それから、国立岩国病院の白木先生にお願いして、仕事の合間をみて何週間かかけて検査が進められた。できればカテーテルや風船爆弾は願い下げにさせていただきたいと思いながら。

最後に心筋シンチグラムとホルター心電図ができあがった。

心筋シンチグラムは、子供のころに安物の天体望遠鏡で見たぼんやりした火星のような画像をフィルムに写し出していた。

しかし、このぼんやりした火星のおかげで、カテーテルの必要はないという診断結果が出た。もちろん、風船爆弾は仕掛けなくてもよいということとなった。

無罪放免となった今は、美女の前のカウンターで、念のために薬を水割りで飲んでいる。

日本軍の風船爆弾は、バランスをとるために砂を積んでいたが、この砂を分析したアメリカ軍は風船爆弾の発進地を関東地区太平洋岸と断定した。やがて九十九里浜近くの発進基地が発見され、風船爆弾作戦は終了した。

マダガスカル島訪問

徳山 姫野 英雄

未知の島である。南アフリカの東 500 キロメートル、モザンビーク海峡をへだてたインド洋の島である。アフリカ大陸に比すれば誠に小さく見えるが面積は 58 平方キロメートル余、グリーンランド、ニューギニア、ボルネオに次ぐ世界第四位、日本の 1.6 倍の広さを持つ。島の中央には、北から南へ 海 抜 800 ～ 1,800 メートルの中央高原台地が走り、島を東



マダガスカル共和国
首都 アンタナナリヴ

西に二分している。ちょうど「からいも」をころがしたような形である。強い季節風のため、北東部の熱帯雨林から南部の砂漠まで変化に富んでいる。首都のアンタナナリヴは標高 1,300 メートル、私の訪れた 7 月は冬期にあたり、熱帯地方でありながら、大変過ごしやすい気温であった。

ここはアフリカ大陸とゴンドワナ大陸を形成していたが、1 億年以上前、分離し、この

島に残った生物は大陸とは異なった進化をとげ、複雑な地形と気候のため、さまざまな動植物が生息し、代表的なバオバブの木や、昆虫類、爬虫類、鳥類など多く、原猿類の一種でキツネザル類は特徴的である。ここにはアジアとアフリカが混在する民族と文化がある。マダガスカル人の祖先はインドネシアやポリネシアから渡ってきたと考えられている。昭和 17 年 5 月 30 日、午後 8 時 30 分、日本から 12,000 キロ、マダガスカル島ディエゴスワレス湾に 2 艇の特殊潜航艇が母潜水艦より発進し、月光の下、英戦艦ラミリーズ、油槽船ブリティッシュ・ロイヤリティに魚雷攻撃をしかけた。搭乗員は 1 号艇、秋枝中佐、竹本一曹、2 号艇、岩瀬大尉、高田二曹の 4 名であった。そして、戦艦は大破、タンカーは轟沈という大戦果をあげた。しかし 2 艇とも会合地点に現れなかった。そして時が経ち、平成 13 年 6 月 29 日、特潜四勇士慰霊碑参拝の参加



慰霊碑前

者が成田に集合した。参加者は、碑の建立や練習艦隊の訪問にご尽力された松浦光利氏（元海将、南極観測船富士艦長、東京マリン）、秋枝三郎中佐と海兵同期の谷川清澄氏（元海将、佐世保総監）、秋枝中佐と同郷、姫野英雄（元軍医、鎮魂歌作詞）、戦史研究家、金山孝之氏（法大名誉教授）松浦氏とともに碑の建立に携わってきた石井孝行氏（元大豊建設マダガスカル所長）、戦史研究家、板倉昌之氏（板倉エンタープライズ代表）の 6 名であった。成田空港よりシンガポール、6 時間、乗り継いでさらに 6 時間、途中、レ・ユニオンで一部乗客をおろし、マダガスカル首都アンタナナリヴ到着。

首都中央の瀟洒なラ・フランスに泊まる。翌日は国内航空で北に向かい本島最北端、アンチラナナ（ディエゴ・スワレス）に行く。さて平成 13 年度遠洋航海は印度洋・中近東方面。司令官は下関市ご出身の保井信治海将補、かしま艦長川井一

志一等海佐、副長三輪一雅二等海佐、やまぎり艦長木村豊前二等海佐、副長田尻裕昭二等海佐ほか実習幹部 146 名（内婦人自衛官 3 名）実習隊員 150 名で 4 月 20 日、晴海阜頭を出航し、9 月 10 日までの訓練である。7 月 3 日早朝ディエゴ・スワレス湾に入港し、特潜艇特攻慰霊碑参拝が予定され、吾々「水交」グループも参加した。小生秋枝中佐の鎮魂歌を作詞し、献花をさせていただいた。短期間をフルに過ごし、アンティラナナの町を歩き、大豊建設現地職員に大変お世話になった。去る夕刻現地の海岸に立ち、南十字星を眺めた感激、眼底にはっきりと焼き付いている。さて、

慰霊碑は 2 艇の特潜が急襲した湾を見下ろす岬の先端、当地国立病院の塀に寄りそうように建てられ、沖合いには練習艦「かしま」「やまぎり」が錨をおろし偉容が頼もしい。折柄、南極の風は非常に強く、各艦実習員の乗る内火艇は木の葉のようにゆれつつも全員元気に上陸し、予定通り

儀式は進められた。式はマダガスカル陸軍の「君が代」吹奏ではじまり、日向（ひなた）マダガスカル共和国日本大使、保井司令官、ディエゴスワレス州知事、市長の挨拶があり、野立て、献茶の女性士官は凛々しく、美人。先日呉総監経田勇海将にお逢いする機会があったが、先輩の谷川元海将が来られて、マダガスカル国軍軍隊の楽器は凹凸だらけでみすばらしい。わが自衛隊の楽器交換の折には助けてやってほしいと云われていたとの由。アンタナナリヴ自然動植物園で見た、カメレオンは印象的であった。

帰途、乗機のエンジントラブルで、レ・ユニオンの滞在が一日延びた。ここは仏領火山島である。さらにシンガポールでも一日滞在を余儀なくされ、同行金山先生の友人、シンガポール中国領事キム・ワット氏との知己を得たことも旅の余禄であった。

柿実る

山口 国近 満男

○ 海響館

今年の 4 月初旬に娘から、5 月の連休に何処か旅に案内しようという誘いの電話があった。昨年来息子一家が、医学研究でアメリカに留学中であるので、暖かいプレゼントの有り難いものであった。折角の話であるが、最近 3 年連続してゴールデンウィーク中に医師会の在宅当番医が当たり、今年も 5 月 5 日に決まっているので遠出は無理で、相談の結果近く海響館にした。今更説明するまでもなく、市営の水族館である。水族館も然ることながら、新しい新名所となった唐戸周辺で初夏の関門海峡を眺め乍ら散策したかったからである。下関は大陸交通の玄関口であり、国際航路として、韓国の釜山、中国の青島への直行便がある。その下関港国際ターミナルのすぐ近くに、海峡メッセ下関のシンボルタワーが、コンベンション施設、商業ビルとともに大活躍している。唐戸地区は往年の繁華街であり、源平壇之浦合戦、連合艦隊の下関襲撃後の、幕末の志士竜馬、晋作、博文らの足跡の史跡とともに、旧跡の数々があり、経済、交通の要地でハイカラな唐戸周辺が、どのように変わったのか見たい願望があった。下関には要件で何度も行っているが、唐戸周辺の散策までは足を伸ばせないままになっていた。運良く 4 月 29 日は雨も上がり天気になったのでドライブがてら K 家を訪問した。先に先祖の仏壇に合掌し、孫達の活躍のビデオを見せてもらった。卒業式の答辞、学芸会、水泳、マラソン等の場面には感心した。午後になって、海響館で数々のショー等を満喫した。周辺を見てみると、広大な海岸の埋立地を造成し、対岸の門司港レトロ地区の近代化にタイアップして関門連絡船の増便や関門海峡のスペースクルーズも就航し、新しい下関の面目躍如の趣きがあった。寿司、料亭、レストラン、居酒屋、

ふく、海鮮、麵処、喫茶等 45 店舗のあるカモンワーフをはじめ、恋人灯台、ラブストリート等若人のデート場所に適した夢のスポットになり、「関門海峡の潮騒と汽笛」は残したい日本の“音風景百選”に選ばれた新名所となっていた。海響館とカモンワーフの周辺をゆっくり孫達と一緒に語り乍らの散策は楽しい。若葉にふりそそぐ初夏の光りはまぶしく、若い時代を振り返ると、風薫る海峡の海風が頬に心地よいものであった。

○ 柿若葉

その夜に、孫達が成績もよく、元気にすすくと成長しているのを感謝し乍ら一服した。子は親の背を見て育つと云うが、私の少年時代は何を見ていたのであろうかとふりかえってみた。もう半世紀以上も前になるのでずいぶんと世相が変り、今では想像もできないようなものであった。

私の里の 2 階の自室の窓を通して世間を見ていた。窓のすぐ近くに大きな柿の木があり、その向うに松の木のある庭、茶室、穀物倉庫、麴研究室、醸造工場へと続いていた。若葉の芽から柿の実がなる季節のうつりかわりを眺めていたが、時局は風雲急を告げ戦争に突入して、直接間接の差はあるが被害があった。経済統制の時代で物資がないので日に日に困窮の度が増していった。職業柄、米、小麦、大豆が大量に必要であるが、入荷は微々たる物であった。その上困ったことに田畑を小作人に頼んでいたが、若い小作人は次々と出征して行き、農作業の代理人のやりくりで四苦八苦し。その上蔵の若い蔵人まで戦地へ招集され、残っていたのは老齢の杜氏と父だけになったので、外国製のエンジン導入による工業化を充実した。それでも間に合わないで年少のわれわれが夜遅く迄手伝っていたが、半人前にもならなかった。やが

てその無理で倒れたが、懸命に頑張っていた日々の姿が脳裡にやきついている。厳しい戦時中の冬に亡くなったが、親戚、知人の公私の別なく病人に栄養がとれるよう物資のない時代に贈りつづけたやさしかった面影を忘れることができない。こうして私の父母から社会学と運否天賦を、家内の父母から人生哲学と医の道を、親の背を見て勇気づけられたのは、庭の木々や草花で、力をいただいたのは多くの方々からの温かい情けと励ましがあったからである。思い出を懐かしみ乍ら……。

しみじみと 父母のおもいで 里の柿

満 男



田舎での、在宅ケアの経験

徳山 石丸 泰隆

私は、平成 4 年に自治医科大学（栃木県）を卒業し、山口県内のへき地・地域医療に従事して 10 年になりました。思い返せば早かったような、長かったようなで、いろいろな経験をさせていただきました。

ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、自治医科大学は、へき地の医師不足の解消に向けて、全国の都道府県が協力して昭和 47 年に設立した医科大学です。私たち卒業生は、国試受験後出身県にもどり、約 9 年間、その県庁の指示によって県内のへき地診療所や病院に派遣されます。その「義務年限」をきちんと消化すれば、学生時代の入学費・授業費などの返済（出身県が立て替えて支払っている）をすべて免除してもらえるというシステムになっています。

もちろん、交通や検査技術などが不十分な時代において、しっかりと田舎に根を下ろされ、長年にわたって、住民を守る地域医療を施してこられた先輩の先生方も多い。その歴史の延長上に私たち自治医大卒業生はいることを肝に銘じておかないといけないでしょう。

話は変わりますが、先日、うっ血性の心不全が悪化し、徳山医師会病院に入院された方（90 歳近くの男性）がおられました。循環器専門医師のアドバイスを受けましたが、根本的な治療方法はないとの事でした。ご本人は、鹿野町の山奥の、清流と木々の緑に囲まれた生活をこよなく好いておられた方でした。病室の窓から、コンビナートの煙を見て「こんなところにおったら、病気になってしまう。帰りたい！」と強く言われ、家族とも相談のうえ自宅に帰りました。「二度と入院はしない。たとえ死ぬとしても、鹿野の自宅で！」、その方の強い、本気の言葉でした。家庭に帰り、一時、投薬が奏効し元気になりましたが、すぐ

に体調不良となり、約 3 週間の訪問看護と医療での対応の末、先日家族に見守られながら自宅で他界されました。まさに、私たちの目の前で、永遠の眠りへの旅立ちでした。

その 3 週間の間、この患者さんの苦痛を緩和してさしあげるために私は、何ができたでしょうか？ 介護用ベッドを入れ、HOT（在宅酸素）を導入し、定期往診と訪問看護を入れ、投薬を工夫し、、、。思いつく事はやっていきました。（持続的に管をつなげる事は、本人も望んでおられないことが分かっていたから行いませんでした。）しかし在宅ケアといいつつ自分の発想は、「入院なら、あの処置をしたいのに」といったような、「病院治療の、単なる縮小版」となっていたようです。痛みの緩和は投薬によりある程度コントロールできるように思っていたましたが、呼吸苦、倦怠感、そして生きる意欲の減退、見守る家族の苦悶など、多くの「苦痛」に対して何が解決できたでしょうか？ 患者さんの喜べる在宅ケアをやっていきたいと、あれほど常日頃思っていたのに、、、。

さて、自治医大を作る準備をすすめている昔、「実地を主とした、医専程度でもよいであろう。」という意見が出たそうです。しかし初代学長の中尾喜久先生は断固反対され、「へき地に住んでいる人だから安直な医専のような学校出の人が診ればよい、ということは絶対にない。創るからには学問の基礎の上に立った、一流の医師を育てる大学であるべきだ。」と強く主張されたのだという話を、先日、先輩からうかがいました。

私個人的に、このような大学に関わり、いわゆる地域医療に取り組んでいる事に、喜びを感じています。そして、多くの患者さんの生活を見ながら、家庭を見ながら、総合的な視点で取り組む（まだまだ、私は未熟ですが）考え方が好きです。

とはいえ、自治医大卒業生の欠点は、若い年

代で「お医者様」という待遇で（田舎に）迎えられること。やはり、現代においても、医療過疎の地域で医療をしてくれる医師は大いに感謝されます。そこに「油断」「怠慢」「うぬぼれ」の危険性が潜んでいます。また、論文作成や研究などを、上司から厳しく鍛えられる時期（チャンス）が、義務年限中には多くありません。たとえ田舎であって実、せっかく臨床研究のテーマの宝の山に触れていて、その重大さに気づかぬままでのかもしれません。また、自分達のやっている地域医療を（他の医師にも評価されるように）客観的に、十分に、表現できないように思います。これらの点は、今後、改善していく必要があると考えています。

さて「高齢者医療と福祉」（岡本祐三著 岩波新書）によりますと、日本人の年間の総死亡者数

は、現在の 100 万人弱から、西暦 2010 年には 132 万人に増加する見込みとのこと。すなわち、（入院病床数が、限られている中では）おのずと、施設内か、在宅での「ターミナル」を迎える方が増加すると考えられます。家庭医でありたい、総合医でありたい、在宅ケアに関わってきたい、、、そんな漠然とした思いをもってやっている私でしたが、先の男性の死は、強烈な経験でした。「きれいな、いい最期だった」というような、簡単な一言では片付けられない 3 週間でした。

ただ、地域医療・在宅ケアを目指すのであれば、医師として、人間として、自己研鑽していかなければならないということを強く、強く、感じました。

花粉計測の 20 年

熊毛 西川 恵子

「私の趣味は顕微鏡で花粉をのぞくこと」と言い続けて 20 年が経ちました。ことの始めは昭和 57 年 2 月に山口大学医学部附属病院から柳井市の周東総合病院に就職したことでした。就職直後、当時は病院に行っても、午前中に少数の外来患者さんが来院されるだけで、のんびり暇をもてあましていました。しかし、ほどなく鼻かぜ様症状の顔を赤く腫らした、充血した目に涙をいっぱいためた患者さんが、大勢やってくるようになりました。いくら私のいいかげんな性格でも、これらの患者さんが鼻アレルギーと呼ばれ



スギ花粉

る疾患であることは、たやすく確診することができました。しかし、その治療にはてこずりました。張り切って薬を処方しても、何やかやいろいろ試してもぜんぜん効果がないと患者さんに文句を言われます。このた

めほとんどやけくそで治療をしていました。そのころは今ほどスギ花粉症という病名がポピュラーでなく、マスコミにも取り上げたりされていなかったのも、これら 2 月から 4 月の鼻かぜ様症状がスギ花粉症の激しい症状と、だれもが気づいていた訳ではありませんでした。患者さん自身も

春先によく風邪をひくと言って、半ばあきらめて季節の過ぎるのをじっと耐えて待っていたようでした。ところが 5 月にはいると何の予告もなしに耳鼻科の外来から、こんな症状を持った患者さんの姿がほとんど消えてしまいました。就職当時はスギ花粉症の患者さんが短期間にこんなにたくさん集中して受診するとは思いませんでしたし、山口大学附属病院外来でも経験がありませんでした。山口大学附属病院のある宇部市と違って、工場もなく空気のきれいな柳井市で、激しいアレルギー症状を起こす原因物質の存在がスギ花粉であるとは、とっさには考えつかなかったのです。就職 2 年目の昭和 58 年 2 月に昨年と同じ人が同じ症状で受診されるようになると、これらの患者さんのほとんどがスギ花粉症であると気が付きました。おそらく柳井市は宇部市よりはるかに大量のスギ花粉が飛んでいるのだらうと・・・。

そこで就職 3 年目の昭和 59 年 2 月からスギ花粉の空中花粉飛散計測を始めました。周東総合病院検査科の神田技師長が興味を持ってくださったので、いっしょに“あーでもないこーでもない”と 2 人で悩んでいました。ちなみに参考書は東邦大学薬学部教授の幾瀬マサ先生の「日本植物の花粉」でした。その後も本を読むだけではなかなか納得できないので、著者の先生の研究室を人を介して紹介していただき、私は東京の学会のついでに千葉まで足をのばして研究室を訪ねまし

た。そこで目からうろこが落ちるように今まで分からなかった花粉のことが見えてきました。当時東邦大学薬学部講師で、現在は教授の佐橋紀男先生に、花粉計測の機器の扱いや、花粉観察の方法や花粉の鑑別方法を教えていただきました。すると顕微鏡の世界が急に身近になりました。また日本花粉学会にも入れていただき、医学以外の研究者の方々ともお付き合いさせていただくようになりました。そこで幾瀬先生がボーナスをすべて新しいカメラにつぎこんで花粉の顕微鏡写真を撮って撮ってとりまくった話など、楽しい話も聞かせていただきました。また私は出身が岡山市なので、岡山でネズ花粉症が発見されたということは衝撃的でした。実家の母たちに長年 5 月過ぎても花粉症に悩まされると相談されていて（いつも私は答えられなかったのに・・・）、岡山の研究者のたゆまぬ努力が、ヒノキの飛散が終了した後のヒノキ科ネズ花粉の存在を見出されたものと敬服いたしました。

あれから 20 年だんだん私も老眼鏡が必要になり、顕微鏡をのぞくのも目が疲れて見づらく、細かい字が読みづらく、鼓膜を診るのも拡大鏡が必要になりました。平成 13 年 10 月開業して、あと何年花粉観察を継続できるかわかりませんが、ここまでくると毎年スギ花粉計測を止めるのも勇気がいるので、ただ何となくむずかしいことは考えないでだらだら続けているしだいです。



北の大地に魅せられて

光 高橋 建次

私の母校のシンボルマークは、丹頂鶴(タンチョウ)であります。私の診療所も少し夢をのせた不思議なタンチョウのシンボルマークを愛用しています。学生時代、中国の要人が岡山へ来られ、一組のタンチョウを後樂園に贈られたのです。この時初めてタンチョウの美しい姿を目にしたのです。この鳥が大空を飛ぶ姿を思い浮かべながら自然の中のタンチョウを見たいと思っておりました。最近、写真雑誌に北海道のタンチョウのいろいろな

姿を見るようになり、一度冬の道東に行ってなんとか撮ってみたいと準備をしておりました。鳴きあう姿、飛び立つ姿、夕焼けの空を飛ぶタンチョウの群れをイメージして冬の鶴居村に行ったのです。最初の年、給餌場に集まっているタンチョウを撮りまくったのです。そこへエゾシカの群れが現れたので、昼食も忘れてシャッターを切りつづけたのです。二度目の冬は阿寒に行き、やっと青空を飛ぶタンチョウの美しい姿と、雄々しいオジロワシが撮れ、大喜びだったのです。今タンチョウとシマフクロウが待合室の主として見守ってくれているのです。最初に訪れた釧路の冬はマイナス 0℃～20℃で湿原を流れる川はシャーベット様の氷の流れでした。川面からは盛んに水蒸気が上がり、まるでお湯の川のような光景でした。水蒸気が河畔の樹木にまとわりついて樹氷になっています。川霧は太陽の光を受けて、その姿が鮮明になり、河畔林は川の蛇行にそって続く霧氷林となり幻想的な光景を作っています。冬を迎えた釧路湿原の一角にある鶴居村を流れる雪裡川にかかる音羽橋の上は、暗闇の中に立ち並ぶカメラマンの集団があり、望遠レンズの列ができています。川霧が立ち上り人々の衣服やカメラにも露水がとりつく寒さでした。朝日が川霧に差しこんでくると逆光の中にシルエットのタ

ンチョウが浮かび上がってその美しい姿を見せてくれます。雪と氷の湿原を追われ、この凍らない川と水辺を求めて寝場所に集まって来るのです。夜が明けて、濃い川霧はタンチョウの姿を幻想

の世界に包みこみ、朝日がさしこんでくるところにはタンチョウの姿が浮かび上がり、川岸の霧氷林がきらきらひかります。陽が上り、ゆらめく川霧の中をゆっくり動き始めるタンチョウの姿をみることができるのは世界中でここだけでしょう。二度目

の冬は雪原につむじ風の舞う餌場に集まっているタンチョウと、餌のウグイをねらうオジロワシとキタキツネの群れる阿寒です。青天を舞うオジロワシとタンチョウの群れに雪中でレンズをふりまわしたのです。三度目の訪問は5月で厳しい冬の世界はなく湿原は芽吹き始め、コッタロ湿原には卵を抱くタンチョウを見ることが出来ました。湿原を流れる釧路川岸の柳も芽吹き、幻の魚、イトウをねらう釣り人が多勢でした。上空にはノゴマやアオジがさえずり、河畔には時々エゾシカの群れが顔を見せる、すばらしい湿原風景でした。

湿原の展望台のひとつである細野では、シマリスにもあえました。夜のシマフクロウをねらって中標別へ向い、川岸でエゾリス、クロテン、アカゲラに出合い夢中になりいつの間にか暗くなっていた程でした。深夜になって待ちにまったシマフクロウが現れ、やっとシャッターがきれました。かつてアイヌの人々がこの鳥をコタンカムイ(村を守る神)と呼び、最上級の神として崇めたのも闇の支配者の様な姿と、鳴き声にあると思えたのです。絶滅に近かったタンチョウを守り、40羽に減ったシマフクロウを守り続ける北海道の人々に感謝しなければなりません。美しい自然は北の人の力そのものであると思うのであります。



よそひと 他人の女

徳山 望月 一徳

この頃は、世の中が日に日に便利になって、特に通信手段の発達では人と人が顔を合わさなくても用が足せるようになりました。

だから、見知らぬ人との会話は確実に減りもするし話し方も下手になっているように思います。

それを察してか、自治体も公園や通りを改修するたびにやたらと“ふれあい”の冠をつけています。そんな姑息なことが効果のあるはずもないのは、通りや公園を利用してみれば、すぐに分ります。だれも触れ合ってなんかいません。

わが身を振り返って見れば、町に出ても口をきかなくなりました。コンビニエンスストアでは「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」に返事をしない自分に気づいて、人のことを言っている場合か、と反省しきりです。

核家族の上に高齢化が進み、隣人との会話が減れば孤独感はひとおしで、“ふれあい”に次いで“癒し”が提唱されるようになったのは当然の帰結といっていよいでしょう。

“癒し”が必要なのは、平成の若い人達も同様で、昼休み時間内でのマッサージ、最近はアジア系マッサージで、足だけというのも登場しています。アロマテラピーと言えば、もっともらしく聞こえますが、“香りをきく”のは日本の伝統文化でもあります。

温泉、ワイン、音楽の 3 点セットを売り込むのは、石川県加賀市の老舗旅館でキャッチコピーは“五感を満す最強の癒し”(週刊朝日 7 月 5 日号)とか…。こんなイベントが成り立つところを見ると、平成不況のこの頃は“癒し”を必要としている人が多いということでしょう。

◇ ◇ ◇

“癒し”のもっとも一般的で今も昔も変らぬも

のは犬や猫に代表されるペットでしょう。気のきいたケアハウスあたりでは、ペットの癒し効果に注目して、ボランティア犬と孤独な高齢者との間にスキンシップを勧めています。癒し効果で血圧が下がるそうです。

しかし、犬を飼っている経験からすると、自分で世話する犬、猫とのスキンシップならより一層の効果が期待できると思います。

「口の付いたものは真っ平ごめん」と言う人もいるぐらいですから、癒し効果が期待できるとしても生きものの世話は大変です。それだけに、飼えば可愛さがつのるということでしょうか。

「あれだけ不細工な犬を、よう飼っとるわ!」と、口には出しませんが、人様にはただの雑犬でも飼い主にしてみれば、可愛いペットなのです。

町内には、あそこに 1 匹、ここにも 1 匹と指折り数えて 5 本の指では間に合わぬほどの飼い犬がいて、それぞれに幸せに暮らしています。癒し効果や子供たちの情操教育に役立っているに違いありません。

わが家では、とうとう雌の老犬が 1 匹だけとなりました。もう 16 歳にもなります。視力はともかく聴力の著しい低下で、自動車が傍を通るのさえ気付きません。危ないのでその都度、教えてやる始末です。歯は抜け落ちてはいませんが、根もとからユルユルになっているのが何本もあります。だから、堅い食物は与えないように気をつけています。

今どきは、冬毛から夏毛への脱毛時期なのでボロ雑巾のようになっています。とてもペットの“癒し”効果どころか飼い主の方が、老犬への癒しと介護に気を使っています。

純粋の雑犬を何匹も飼いつづけた犬の庶民派から見ると、西洋犬のラブラドルやゴールデン・リトリバーは押し出しが立派、ゆったりと歩く様

は王者の風格を感じます。かねてよりこんな血統書付きの犬なら、さぞかし癒し効果があるに違いないと感じておりました。

ところで町内にもそのゴールデン・リトリバーがおりました。雌犬でルビーといいます。お察しの通り、「他人の女」とは、この犬のことなのです。

事情があって、その家の 2 階建ての 1 軒丸ごとを犬小屋にして生活しています。だから住については、そこらあたりのやもめより恵まれています。

食事や散歩の世話は、これも事情があってのことですが母親と娘が交代で夕方にやってきて、務めてはいるが夜間は独り暮らしだ、と隣家の人から聞きました(大型犬なのに 1 日 1 回の散歩は少ないヨ! と余計な口出しです)。

肝腎の飼い主の兄いは渡英中で、現地の旅行会社に勤めており、当分帰ってくる気配もありません。今年 1 月、2 週間程の帰国中にルビーと散歩中の彼に森の中で会いました。

「イギリスへ連れて行ってやったら?!

「動物の移住は、検疫期間が長くてかわいそうだから…」と兄い(日本に残して独り暮らしさせるほうが可哀相と思うけど…)。

2 週間の休暇を終えて、兄いは英国へ帰りました。

♡ ♡ ♡

「可哀相なルビー!」と隣家の家族と私たち夫婦が会えば、立話です。幸いなことに、先方の母親と家内がかつての PTA で顔見知りです。早速、「ルビーの散歩権」の交渉です。かねてより隣家が不憫がって、散歩を申し込んでも「ダニがつくから・・・」と、兄いに断られていたようです。

「ダニが怖くて犬がやっとなられるか!」と、代弁してやりたいところですが、なにしろ「他人の女」です。家内が、我が家の犬の散歩のついであるからと申しでて、母親の了解を得たのは 1 月末のことでした。

初めての散歩は、忘れもしない 2 月 2 日でした。ドッグフードを喰べるだけ喰べて運動不足ですから、腰のあたりは驚くほどのぜい肉です。

それはともかく散歩と分った時の喜びようは尋常ではありません。その喜ぶ様を見るだけでも当方への“癒し”の効果は十分です。

散歩が済んでも帰りたくない駄々をこねて五体を投げ出すのには閉口しました。めったとない散歩ですから彼女の気持ちも分らぬではありませんが、家内が首輪を引っ張る、私が尻を押す。なにしろ巨体ですから、庭へ押し込むたびにひと汗かかされました。

やがて定期的に散歩してくれる、と心が通じ合うようになってからは素直になりました。

犬と人間の心の交流で至福の時間を共有しておりましたが、それから 2 ヶ月後にやはりと言うべきか「他人の女」に異変が起こりました。

この話の続きは、またの機会に。

トッピンカラリンネケド!



あこがれの槍ヶ岳 (3,180 m) へ

山口 松尾 清巧

文政 11 年 (1828 年) 7 月 20 日、前人未到の槍ヶ岳山頂に到達した播隆上人は、そこで五色に彩られた輪の中に阿弥陀如来の姿を見た。そして後に続く人の安全のために浄財を集めて、山頂から命の綱をかけたという。

時は下って平成 11 年に決して信心深くない 2 人連れが富山から槍ヶ岳に登り長野県上高地におりました。

8 月 10 日夜小郡発、新大阪で乗り換えて急行きたぐにで車中泊ですが、乗客のほとんどが登山者です。うとうとしながらも診療している夢をみていました。

8 月 11 日 5 時富山駅に着き、富山地鉄の電車とバスを乗り継ぎ登山口の折立に 8 時すぎに着きました。登山届けを出し意気揚々と登りはじめます。重いザックを背負い旅するのは大学時代の北海道旅行以来です。樹林帯を、そしてハイマツ帯の中を有峰湖を背に登ります。11 時半に太郎平小屋に着き昼食です。登山路の交差点でここまではかなり人がいます。薬師沢まで下りです。黒部川上流の吊橋をおそろおそろ渡り下った分だけ急坂の登り返しで、雨の中睡眠不足と体力不足で息切れがします。休み休み登りやっと雲ノ平小屋が見えました。外でテントを張り、夕食すませ就眠しますが夏とはいえ高地で、シュラフカバーのみでは寒く熟睡できません。

8 月 12 日雨。5 時 40 分テント撤収し、高天ヶ原まで往復です。8 時に河原に湯煙とサルらしき群が見えます。高天ヶ原温泉で、サルに見えたのは入浴中の都立大ワングル部員でした。硫黄温泉で疲れた体がほぐれます。11 時に雲ノ平に戻り昼食後出発です。途中ビール箱を背負った若い強力ごうりきの男女に出合い、「お疲れ様。」と声をかけると、「ヘリでは運び足りないのを人力で運んでいます。一滴も残さないでね。」との言葉が返っ

てきました。黒部川源流を越えるころ雨足が強くなります。14 時に三俣山荘そばを通過し、三俣蓮華岳を巻いて 16 時 40 分に双六山荘に着きました。濡れているのでテントでなく小屋泊まりです。乾燥室で服ごと体を乾かし、おでんとビール (350ml 缶が 500 円) で一息つきながら、明日も雨かと心配です。同室の東北から来た人は、「明日は帰るんだ、槍行けなかったけどもう来ることねえんだ。」と寂しそうです。

8 月 13 日朝起きたら晴れています。5 時半に出発し樺沢岳を踏み、鷲羽岳や稜線の遙か向こうに聳える槍を眺め、西鎌尾根と呼ばれる登山路を歩きます。稚児車 (ちんぐるま)、岩桔梗、高嶺たかねツメクサなどの高山植物が目を楽しませてくれます。8 時 30 分に千丈沢乗越です。槍の肩をほぼ真上に見上げます。急登を喘ぎながらとぼとぼ登り、9 時 30 分に槍の肩にある槍ヶ岳山荘に着き一息入れます。槍の穂に登る人間が小さく見えます。行動食を摂りザックを山荘にデポしカメラと水を持ちいよいよ槍ヶ岳にアタックです。鎖場、杭、梯子が次々あり慎重に上がります。足を滑らしたらずーと下まで転がり落ちそうです。最後の垂直のはしご 2 つを登って槍ヶ岳山頂に 10 時に立ちました。ガスで遠望はききません。山頂は広さ約 20 人分でしょうか、俗人には阿弥陀如来は見えませんが、祠の前で記念撮影して、しばし満足感にひたり、山荘まで下ります。山荘で昼食中に知人に会いました。市内で会うことはないのに 3,000 m の山の上で出会うとは愉快でした。ここに慈恵医大山岳診療所が併設され、けが人や急病人を保険外で診療します。11 時半下山です。14 時槍沢に着くころにまた雨が降り始め頭上では雷鳴も轟いていましたが、翌朝に山向こうの丹沢の玄倉川のキャンパーを押し流すことになる低気圧だったとは思いませんでした。徳沢からは

破れたまめが痛むのをこらえてどしゃ降りの中をひたすら歩きます。明神の右手には穂高が壁のようにそびえています。いつか穂高にも登りたい。18 時半上高地バスターミナルに着き最終便に間に合いました。1 時間後新島々駅前の妙鉱温泉にはいりやと下界に戻ったようです。

今回は 3 日間のうち 2 日半は雨でしたが槍ヶ岳に登る時間だけ晴れて幸いでした。遠くに見える山でも一歩ずつ足を前に出していけば近づくものだと実感しました。

(参考)

- 1) <http://www.mcci.or.jp/www/yarigatake>
(槍ヶ岳山荘ホームページ)
- 2) <http://www.avis.ne.jp/-police/sangaku>
(長野県警山岳情報)
- 3) 「槍ヶ岳に登った記」芥川龍之介全集、文人も旧制中学時代に登った
- 4) 「槍ヶ岳開山」新田次郎、笠ヶ岳・槍ヶ岳に登った播隆上人の物語

~~~~~

## 私の空飛ぶ人生

徳山 神田 博

物心ついたころより私の夢はパイロットになることでした。幼い時は風呂敷をマントに両手に傘を持ち、高い所からおもいきりジャンプをして、何度も空を飛ばうとしたものです。竹とんぼからラジコン飛行機、パラグライダー、グライダーと、空飛ぶものにはほとんど挑戦しました。

大学進学の際ももちろんパイロットになることを考えていましたが、当時、自衛隊、航空大学校等に行くには裸眼視力が低く、医師の道を選びました。現在の基準は矯正視力のみとなっています。

北海道立北見病院に勤務の時、近くの女満別空港で飛行機の免許が取れ

ることを知り、日曜日の午後 2 時間の訓練を開始、流水の上、知床半島上空も飛びました。そのころはまだソ連との関係が緊張状態であり、北方領土に少しでも近づくとミサイル攻撃されるのでは・・・と心配しながらの訓練でした。毎週休日

の訓練だけでは物足りず、ハワイでの集中訓練を重ね、31 歳で念願の飛行機（単発機）の免許を手にしました。

その後、第 31 次南極観測越冬隊に参加、病人もいない昭和基地では主に航空隊を手伝い、専門パイロットとともに飛んだ白い大陸上空か



双発機 ビーチクラフト式 58 型 (バロン)  
北九州空港にて

らの景色は今も忘れることはできません。皇帝ペンギン、アザラシ、鯨の大群、私にとって南極には多くの活動の場がありました。

飛行機の資格には、単発機と多発機、さらには計器飛行などの資格があります。飛行時間を重ねてくると、さらに上級のライセンスを手にしたいものです。左右のエンジンの一方を止めて飛ぶ練習を 3 年間続け、39 歳で多発機の資格を取得しました。

小型飛行機が危険とされている方が多いかもしれませんが、飛行機の性能と気象を理解し、十分な経験を有したパイロットが飛ぶ限りジャンボ機よりも安全です。最近の新聞紙上で小型機の事故を良く見ますが、そのほとんどがパイロットの経験不足によるものです。

私の飛行で今まで一番緊張したのは、家族全員で 5 月の連休に北海道へ行った時です。

快晴の中、朝 8 時北九州空港を離陸、新潟空港で給油と食事をして午後 3 時目的地女満別の上空 3,000 m。空港の天気はみぞれ、女満別空港と無線連絡すると、本日朝から着陸機は一番もないとの連絡があり、雲の中を降下、対地 100m の高度でも視界はゼロ、最低降下高度の対地 60m で滑走路のライトを確認して降下を続け、ギリギリで着陸しました。それを知ってか知らずか家族全員寝ていました。しかし、今思えば真っ白な世界からいきなり滑走路に着陸では子供達 3 人大騒ぎされるところでしたから、静かな緊張の中で着陸態勢に入ることができて幸いでした。すぐ後に全日空の飛行機が着陸を 2 回試みましたが、千歳空港へ向かいました。結局その日、着陸機は私たちだけでした。これは、大型機より小型機の着陸距離が短いこと、最低降下高度が低いためのものです。

さて、徳山医師会の先生方で、私のフライトに同乗された勇気ある先生は 3 名いらっしゃいます。宮崎空港へ青島見学に姫野先生、一泊で福井空港へ行き、ゴルフを教えていただいた武居先生と浅見先生です。天気も快晴、帰りのフライトのことは頭になかったのか、それとも私の操縦を信頼されてか、お二人のスコアは立派でした。

今の私の夢は、自分の操縦で 1 年かけてゆっ

くりと世界一周をすることです。そのためには計器飛行の資格が必要です。現在私は、この免許取得に向けてほとんどの日曜日をフライトに費やしています。そして毎晩、自宅のフライトシュミレーターで訓練です。今年の 9 月実地試験の予定ですが、プロパイロットと同程度の資格への挑戦は非常に大変ですが、ワクワクしていま

す。実際には、この資格は、日本航空や全日空などのパイロット以外ほとんど必要としないものです。

もし自分の手で操縦桿を持って飛行してみたいと思われる方、今からでも遅くありません。日本の自家用パイロットの多くの方は 50 代～60 代で始められています。

瀬戸内海と日本海が同じ視界に入る 3,000 m 上空でのんびり操縦桿を握っていると、地上での嫌なこと、診療のことを忘れ（高度 1,500 m 以上ですと携帯電話はつながりません。）、すべてのストレスも飛んで行きます。



単発機 セスナ式 172P 型 (スカイホーク)  
上空にて

## My favorite time

宇部 吉本 賢良

音楽、それも特に好きなジャズを聴いたり演奏したりしている時は、私の最高の favorite time。年甲斐もなくこの物好きおじさん、市内のジャズ喫茶ボブで若い人に混じってライブ演奏を始めて 4 年になります。メンバーはリーダーで、現在福岡市のジャズシーンで人気があり飛躍の時を狙っている新進気鋭のテナー奏者清水ケン G、ベースは大学時代はベーシスト池田芳夫に師事した本格派 I 氏（計量器メーカーの御曹司）、ドラムは興産で応用化学の研究をしている K 氏、それとピアノが私でカルテット。毎月第 4 金曜日になると 1 時間位前には集まり何を演奏するか話し合うが、『雨か降っているから雨の曲をやろう』とか、かなりいいかげんに決まっていく。リハーサルはあっても 10 分か 20 分、ないことも多い。どう曲が仕上がるかだれにも分からないところがある意味でジャズのスリリングな魅力だ。客は多くても 10 人前後少ない時は 2～3 人のこともあるが、マスターの理解もあり皆気にしない。音楽の好きな人は多いが、クラシックと比べてもジャズはやはりマイナー。『わからない』『うるさい』というイメージを持っておられる方が多いのは寂しい。

音楽ではメロディーそれにハーモニーさらにリズム等が大切だが、クラシックでは強弱から指使いに至るまで、すべては楽譜で指示されている。いくらこのほうがよいと思っても楽譜からはずれることは許されないし、そんなことをしなくても楽譜どおりに演奏すれば名曲に仕上がるように作曲家が作っている。だから演奏者は何十回、何百回とほとんど空で弾けるようになるまで練習する。

一方ジャズでは即興演奏が命であり、短いユニットは練習しても合わせて何度も練習することはない。もし何度も練習すればどう展開するか面白みがなくなってしまう。最小限のルールさえ



守ればすべては演奏者まかせなので、だれにも気兼ねすることなく自由に演奏できる。スピリットだしハートだからセンスさえ良ければ、どんな曲でも名演に変身しメンバーからも賞賛のまなざしをうける。ただうまくいかなければ、ただ『わからない』『うるさい』だけとなる恐れも十分あるが、瞬間瞬間に思いついたフレーズを弾き込んでいくこの緊張感はたまらない。よく『ジャズでは名演ありて、名曲なし』といわれますがこういう事なのでしょう。

開業して 15 年ワンパターンの連続で、本当に頭を使うことが少なくなった。診療中でさえ口や手が勝手にしゃべったり書いたりして、頭はほとんど使っていない（患者さんには言えませんが）。でもライブ演奏中は頭の中の 5 線紙に音符が飛び跳ねているのが分かり『使ってるー』という実感がわきます。ぼけの予防にでもなればもっとよいのですが。

月 1 回くらい遊んでもよかろうと始めたライブ演奏ですが、紹介されたりしたりで、いつのまにかあちらこちらに出没するはめとなり、月によっては毎週末ということもあります。結婚する前は、私の演奏会のポスターを自分の部屋にまではってくれた家内だが、いまはどことなく『いい年をして、』と言いたげな目をしているが、気にしないようにしている。

## 閑中日本書紀考

宇部 佐々井 一彦

私は昨年 9 月より宇部でささい放射線科を新規開業している佐々井一彦です。昭和 44 年卒業以来、大部分山口大学で道楽をし続け国家予算を食いつぶしてきました。「そろそろ自分で働け」と 20 数年小児科を開業している女房にけしかけられ、やっと正業に就きました。後から後悔してはいけないと思い CT 室を 1m, 透視室を 1m, 内視鏡室を 1m と設計図に 1m ずつ加え、ついには自分らの住むところが著しく狭くなってしまいました。

始めこそ知り合いがご祝儀患者で来てくれたが、猶予期間が過ぎ支払いが始まると、予想していたとは言え、患者の数は伸びず、金はどんどん出て行く。優良企業の小児科が赤字補填でねちねち文句を言う。「男が仕事をするのに 2,3 億の金でがたがた言うな」と一喝するも、さすがに、借りた運転資金もなくなってくるとトーンが下がってくる。「放射線科だろう、最初からうまくいくわけがなかろう、そのうちに楽をさせてやるから、大船に乗ったつもりで待っとけ」「いつまで」「そのうちよ」。

ゴールデンウィークの始まりの 4 月 27 日の土曜日、昼までで仕事が終わると小児科が気晴らしにどこかへ行こうと言い出した。抵抗して横になっているそばで、ごそごそ出かける用意をしている。「出るよ」、「どこへ」、「鹿児島方面」。しばらく抵抗していたが、とうとう引っ張り出された。高速の黒崎で鹿児島方面の地図を買った。どうせ行くのなら、海岸べりを行こうと、八代で高速を降りた。次第に日が暮れそうになってきて、走りながら泊まる場所を探し始めた。小さな温泉が結構あったが、パンフレットを見るとそこらあたりでは湯の児温泉が一番大きそうだったので、そこに決めた。まず高台で眺めの良さそうなホテルを訪ねたが、満員だった。次に良さそうな海辺

のホテルを訪ねると、空いておりすんなり泊まれた。もとは徳富蘇峰が定宿にしていた由緒ある旅館だったらしく、その部屋も残っていた。静かな水俣湾を望み、温泉も良かった。翌日は黒潮渦巻く、黒の瀬戸に寄ったり、延々と続く吹上浜に寄ったりしながら、薩摩半島の八代海側の先端の笠沙町に着いた。その近くの岬には九電の風力発電の大きな風車が 10 数基ゆっくり回っていた。舗装はしてあるが工事のために作ったと思われる車 1 台がやっと通れるほどの登山道があり、登ることにした。周りは絶壁で、前はよく見えないし、恐ろしくて途中で引返そうかと思ひ少し広いところで止まっていると、上から地元のおばあさんが軽トラで降りてきた。これには負けておれないと、とうとう頂上まで上がった。下では想像もできないほどの景色で、まさに黒潮という青黒い海が絶壁の下から広がっていた。この町には資料館があり中に入ると、天照大神の孫にあたるニニギの尊が笠沙の岬に上陸し、この近くの阿多という場所から、アタツ姫を娶ったという伝説が書いてあった。朝出る時は霧島温泉に泊まろうかと思っていたが結局は指宿で日が暮れた。宿は第一候補がすんなり取れた。翌日長い山道を登っていくと、昼前に湯煙が立ち上がっている霧島温泉郷に着いた。霧島には天孫降臨のくしふる岳、高千穂の峰もあり、扉に菊のご紋が付いた、大きな霧島神社もあった。後から考えればあたりまえかもしれないが、驚いた事に、ここにもニニギの尊が祀ってあった。霧島温泉の露天風呂に浸かりながら、なぜ熊襲征伐を行うほど敵対視している熊襲の真只中に天孫降臨を持ってきたのだろうか、ニニギの尊の子供で、兄の海幸彦、弟の山幸彦の話も、負けた海幸彦がいぬ人(隼人)となって仕えるということから鹿児島県の話であり、イザナギの尊が黄泉の国から逃げ帰り、日向の橘のあおぎがは

らで禊をした話も、神武初代天皇が日向から大和へ東征した話も宮崎県の話である。これらの話と熊襲とは関係あるのだろうか、さらには宮崎県には西都原を中心とし 1,200 以上の古墳群があり、すごい一大古代国家があったが、これらと卑弥呼との関係、大和朝廷との関係はどうなのだろうか等々、次々疑問がわいてきた。

診療の合間と言っても、合間の方が長いのですが、日本書紀のお勉強を始めることにしました。日本書紀は漢文で書かれた歴史書で 720 年に完成している。内容の多くは 712 年にできた古事記と良く似ているが、中国、韓国の歴史書を引用している点が異なる。

アマテラスオオミ神とスサノオの尊との間にオシオミミの尊が生まれ、その子供のニギハヤヒの尊が熊襲の高千穂の峰に降臨した。笠沙の岬に着いて、アタツ姫を娶とり、海幸彦、山幸彦が生まれた。弟のヒコホホデミノ尊の山幸彦が勝ち、後を継いだ。その子供がウガヤフキアエズの尊で、さらにその子供が初代神武天皇カムヤマトイワレヒコの尊である。

神武天皇は東の方により土地があり、既にニギハヤヒの尊が行っているののでそこを目指しなさいと言われ、大和に向かった。船で豊予海峡を通り、宇佐、岡の港、安芸、吉備に寄りながら大和に攻め上ったが、難波でナガスネヒコに抵抗され、兄のイツセの尊は戦死し、失敗に終わった。そこで紀伊から再度上陸しヤタガラスに案内されながら大和に攻め入った。途中でエウカシ、オトウカシの兄弟、エシキ、オトシキの兄弟を破り、ついにはナガスネヒコを破り大和に入った。ナガスネヒコの妹と結婚していたニギハヤヒの尊は物部の祖で、その子孫は天皇家に仕える事になった。天皇は橿原で即位され 127 歳で亡くなった。

次の 2 代から 9 代までの天皇は欠史 8 代と言われ、略歴が書いてあるだけで、その存在が疑われている。

10 代すじん天皇の世はたびたび災難が続いたが、大物主神を三輪山に祀ると災難は収まり、平穏が続いた。この天皇はのちにはつくにしらすめらみことの称号をもらっている。天皇の叔母にあたるヤマトトソモモノ姫が大物主神と結婚し、大物主が蛇である事を発見して、陰部を

箸でついて死んだ。それでその墓は箸墓と言われ 200m 以上の初期の古墳である。これを卑弥呼の墓と言う人がいる。

15 代景行（けいこう）天皇は熊襲征伐のため、まきむくを出発し山口県の佐波に着いた。そこから宇佐の賊を討ち、福岡県京都郡に仮宮を建てた。大分で土蜘蛛という賊を討ち日向の国に熊襲征伐の前線基地としての仮宮を建てた。数年もかけて熊襲を討ち亡ぼし、熊本、阿蘇、八女等を巡回した後、日向から大和に帰った。

その子供が日本武尊で熊襲がまた背いたので熊襲征伐に出かけた。首領の川上タケルを殺す際にタケルという称号をもらった。ついで蝦夷が背いたので征夷将軍として東方に向かった。静岡県焼津で火攻めに遭ったが、草薙の剣で草をなぎ払い助かった。蝦夷を退治した後の帰りに鈴鹿ののぼりで病死し、白鳥になって大和の方へ飛んでいった。

16 代のせいむ天皇は 107 歳で亡くなったが、子供がおらず、日本武尊の子供を 17 代仲哀（ちゅうあい）天皇とした。その皇后が三韓征伐で有名な神攻皇后である。仲哀天皇は熊襲征伐のため穴門（山口県）の豊浦（とよら）の宮に集結した。香椎の宮に移った時、夢の中で新羅を討てのお告げがあったが、熊襲を討ちに行き、負けて急死した。在位 9 年であった。

その年神攻皇后は身ごもっていたが、男装し新羅を討ちに武内のすくねとともに海を渡り、新羅王を降伏させた。その時百済、高麗もかなわないと思い頭を下げたので、金、銀、財宝を得て帰国した。皇后は帰国して直ぐに、福岡県宇美で後の応神天皇を産んだ。この 2 人は宇佐八幡宮の祭神である。豊浦宮に帰った皇后はこの遠征に従った住吉の 3 神を穴門の山田村に祭った。これが長門一宮である。

神攻皇后は皇子の兄であるかごさかの王（みこ）とおしくまの王が大和で反乱を起こしたので、皇子を抱いて、難波に向かったが船がぐるぐる回り進まなかった。それで紀伊の国から上陸し、宇治や大和ではげしい戦闘を行った末破った。神武東征とそっくりな話である。

書記の編者は中国の史書を引用し、神攻皇后 66 年に皇后が中国に使者を送っていると記して

いる。その年が泰初 2 年（239 年）で神攻皇后を卑弥呼と勘違いしている。神攻皇后 69 年に 100 歳で亡くなった。

18 代応神天皇が即位して 3 年目に百済のしんし王が殺され、あか王が即位した。応神 11 年美人の黒髪姫を日向から召されたが、のちの仁徳天皇が先に手をつけたので譲った。応神 16 年あか王が亡くなったので、人質にしていた子供のとき王を百済の王にした。応神 25 年とき王が亡くなり、その子供のくにしんが百済の王になった。応神 41 年に 110 歳で応神天皇が亡くなった。

19 代仁徳天皇が即位したとき民の家から煙が立っていなかった。民が富めれば、自分も富んだ事になると言われて、3 年間課税を免除した。仁徳 17 年新羅が朝貢しなかったので、詰問し貢物を届けさせた。仁徳 53 年新羅が朝貢しなかったので、新羅を攻めた。仁徳 55 年蝦夷が背いたので討たせた。仁徳 87 年に亡くなった。

20 代りちゅう、21 代はんぜい、22 代いんぎょうと仁徳天皇の子供 3 人がつぎつぎと天皇になった。在位は各々 6 年、5 年、42 年であった。いんぎょう天皇の子供が 23 代の天皇になったが、在位 3 年でまよわの王に殺された。その弟のワカタケルが 24 代雄略天皇になった。

雄略天皇はまよわの王をそそのかしたと思われる関係者を次々に殺した。兄弟、いとこ、皇后の実家である豪族の葛城まで亡ぼした。絶大な権力をもって、地方豪族吉備や根の臣を亡ぼした。雄略 5 年百済と倭との同盟のしるしに、百済のこうろ王が弟のこにきしを人質として倭に送った。こにきしは兄の妃と一緒にいきたいと願い出て、かなえられた。しかし妃は妊娠しており、かからの島で出産したので母子共に送り返した。この子供がのちの百済王になるぶねい王である。雄略 20 年百済は高麗の大軍に攻められ、王は死に百済は滅亡寸前であったが、天皇の力で再興した。在位 23 年で雄略天皇は亡くなった。ワカタケルの銘がはいった鉄剣が埼玉の稲荷山古墳、熊本の船平山古墳から出土している。

子供のせいねい天皇が 25 代天皇になったが生まれつき白髪で体が弱く在位 5 年で亡くなった。ここで天皇家は絶えかけたが、雄略天皇に殺された兄の子供 2 人が隠れ生き延びていた。

弟がまず 26 代けんぞう天皇になり、ついで兄が 27 代にんけん天皇になった。在位は 3 年と 8 年であった。じんけん天皇の子供が 28 代武烈天皇になった。天皇は享楽にふけったり、悪行が続いたりして評判が悪かった。武烈 4 年かからの島で生まれた百済のぶねい王が即位した。武烈天皇は在位 8 年で亡くなったが、子供が無くとうとう血統が絶えた。

29 代継体天皇は応神天皇の 5 世の孫を大伴金村が探しだして天皇にしたものである。継体 6 年百済王が任那 4 県を割愛してくれと言ってきた。この 4 県は百済に接しているので許した。継体 17 年百済のぶねい王が亡くなった。継体 21 年任那の地を新羅に取られたので、けぬの臣が 6 万の兵で取り返しに行こうとしたとき、筑紫国造いわいが新羅と組んで反乱を起こした。いわいは福岡、大分、熊本、長崎の地をおさえ、けぬの臣の軍をさえぎった。継体 22 年物部あらかいを大將軍として派遣し、三井の地で戦い鎮圧した。いわいの墓は福岡県八女市にある 200m 級の岩戸山古墳で、後円部に四角い広場が付随しており、壊された石人がならんでいる。このような特長から、日本で埋葬者が分かる古墳の 2 つの内の一つである。なおもう一つの古墳は文武、持統天皇陵である。在位 25 年で継体天皇は亡くなった。

以上が日本書紀上巻の荒筋である。書紀は天皇の在位年数で年代を表わしており、さらに現在でも生きるのが難しい 100 歳以上の天皇がごろごろおられることで、その年代がまったく西暦と対比することができない。しかし後半はかなり在位年数の少ない天皇が続いているので信憑性が高いようにも思える。ところどころ百済の王が出てきているが、いつごろから確かになるのだろうか。

中国の歴史書である三国志の中の魏史倭人伝に 239 年卑弥呼が使いを魏の国に使わした事が比較的詳しく述べてある。それから 400 年代に倭の 5 王が次々に宋に朝貢し安東將軍や大將軍をもらっていることが中国の歴史書に載っている。300 年代は中国にまったく手がかりが無く空白の 4 世紀と言われていたが、明治の初めに中国と北朝鮮の国境近くで高句麗の好太王の碑が

見つかった。大きな石の 4 面に好太王の功績が彫ってあるが、その中に倭が 391 年海を渡って攻めてきて百済、任那、新羅を臣民にしたことや高句麗が倭や百済を撃退したことが書いてある。以上の 3 点セットではなかなか謎は解けないが、他の手がかりとして、朝鮮の歴史書で古代朝鮮 3 国の事柄を記した三国史記がある。これは 1145 年にまとめられたものであるが、意外に内容はかなり精確で好太王の碑文と比べても 1 年ぐらいの誤差しかない。三国史記の概略は以下のようである。310 年ごろは高句麗が一番強く楽浪、帶方郡を手に入れた為、新羅、百済と接するようになり紛争が続発するようになった。中国の燕や隋なども高句麗を亡ぼそうとしたが、戦力を消耗し内部より滅びている。倭はほとんど百済と戦争した事は無く、友好を維持し、時には援助している。任那又はカヤは天皇家の出身地のようで、自分の国のように扱っている。一方新羅とは常に戦争している状態であった。新羅が一番弱かったが最後には唐と組み、他の国を亡ぼして朝鮮を統一した。

日本書紀にはところどころ百済や新羅の話が書いてあるので、三国史記と対比してみればある程度の年代が予測できるはずである。しかし 100 歳以上の天皇がいると言うことは有り得ない事で、天皇の年代は無視せざるを得ない。だいたいその天皇の御世に起きた事柄ぐらいに考えた方がよいと思われる。

まずいつ頃から書紀は精確になるか調べてみた。いわいの反乱が干支から 527 年と言われており、継体 21 年に当たる。継体 17 年にぶねい王が死んでおり三国史記の 523 年に一致する。継体 6 年任那 4 県の割愛も 512 年で一致する。それからすると継体元年は 506 年になる。

倭の 5 王とは 421 と 425 年に贊、438 年に珍、443 と 451 年に済、462 年興、478 年武ら倭の 5 王が宋を訪ねていることをさしている。倭の 5 王については多くの歴史家が述べており、贊、珍は親子、済、興、武は親子、弟の関係が有り、贊は応神か仁徳、珍はりちゅうか、はんぜいと言われている。済、興、武は多くの人が一致していんぎょう、あんこう、雄略と言っている。継体元年から雄略の死まで逆算すると間に 4 人の天皇がおり、在位期間の合計は 24 年である。継体元年

は 506 年なので雄略の死んだ年は 482 年あたりになり、478 年の武は雄略に合致する。しかし死ぬ 4 年前である。

書紀に書いてある天皇の在位期間は応神 41 年、仁徳 87 年、りちゅう 6 年、はんぜい 5 年、いんぎょう 42 年、あんこう 3 年、雄略 23 年である。

済は 8 年後に 2 度目の朝貢をしているので、雄略以前に 8 年以上在位した天皇はいんぎょう天皇しかいない。となると興は 3 年しか在位していないあんこう天皇になる。前王が死んだ年と即位の年は重なっている可能性があるので、それほど自由度はないはずである。仮に 462 年が興の即位 2 年目とすると雄略元年は 463 年となり、雄略は 482 年頃死んでいるので、在位は 20 年間となる。457 年に百済のこうろ王が高句麗の大軍に攻撃されて戦死し、百済滅亡寸前になったが、これは雄略 13 年にあたる。この年はこうろ王の在位 21 年目であった。ちなみに百済王の在位期間はぶねい王 23 年間、とき王 22 年間であった。

日本の天皇の在位も長くて約 22、23 年ぐらいが適当であろう。いんぎょうの 42 年を在位 22 年にすると 437 年に仁徳が死亡した事になる。長い在位期間の天皇でも 22、23 年にすると三国史記と合ってくる。368 年が神攻皇后元年、391 年が応神元年、414 年が仁徳天皇元年にほぼ相当する。367 年百済からはじめて使者が来る、369 年百済とともに新羅を討つ等、神攻皇后の御世のできごとが三国史記の内容とよく一致する。応神らが 391 年新羅に攻め入っていることになる。熊襲征伐をしていたけいこう天皇は 330 年頃活躍していたものとおもわれる。けいこうや、ちゅうあい天皇、神攻皇后は九州山口での活躍がほとんどで、彼らは九州山口一帯の王であった可能性があり、単独で新羅などに攻め入ったものと思われる。一方大和では 300 年代前半に箸墓等の古墳を造るすじん天皇（ハツクニシメスメラミコト）系の一族が既におり、神攻皇后の時代に、神武東征あるいは神攻東征の物語のごとく九州、山口から攻めていったものと推測される。攻めて行った一族あるいは天降ったニニギの尊たちは北部九州の豪族と思われるが、元々はカヤ出身かもしれない。

## シリーズ 酒場の戯れ話

宇部 綿菊 仁彦

### 第 5 話 行きつけスナックの利用法

#### ■ O ママの店で

がらっと引き戸を開けると C 会長さんと目が合い、

会長 「や！ 今晚は、センセもよー呑み廻っとるネ。たまにはお医者 of 勉強やらしよるんかいな」 どかっと腰を据えて呑んでおられる。

勉強しとるんかと？ こちとら楽しく呑もうと来たのに大きなお世話じゃと言いたいところだが、チクリと刺されてしもた。

— 「今晚は 会長さん ピリッと芥子の効いたご挨拶ありがとうございます。それにしてもまだいらっしゃるんですか、もうお出かけタイムでは？ あんまりじらさん方が」 今度はこっちが刺す番。

会長 「解ったわかった そー急がすなっちゃ、今でる今でるから」

飲み残しのビールを一気に飲み干して、  
会長 「まーだビールがよーけ残っとる、勿体ない、センセ呑んでよ。それにしても センセもここへよー来とるが、他に若いえーおなごのおる店やらへ行かんのかいな。こげなおばんのところで呑んでも、どーにもならんやろ」。

ママすかさず口を尖らせて  
ママ 「どーにもならんちゃ、どうということよ？」と負けてはいない。

会長 「冗談ちゃ、冗談。ママを怒らすと恐いけ。ママ、あと頼んだよ」

ママ 「はいはい、いってらっしゃい」

会長の席を片づけながら  
— 「会長は歳いくつ？」

ママ 「70、4 か 5 くらいやろか」

— 「まだ立つんやろか」

ママ 「私に聞きなーや！、そこらあたりは私は知らんよ」

— 「へー 会長と一戦をまじえたことないん？」

ママ 「いい加減にしてよ 私の好みのタイプと違うし、会長からもお声もかからんわ。会長にも選ぶ権利あるんよ」

— 「ハハハ、そーそー、その通り」 笑って言ったら、

ママ 「何がそーそーかね」と叱られた。女心は解りません。

C 会長はご子息に事業を譲られて、ユーユー自適。普段は、C ママのスナックへ呑みに行くと、ご自宅を出かけられるようである。時には会長の奥様も同伴されることがあり、奥様はママを信用しておられるようである。ところが、C 会長はその信用を逆手に取って、ここに立ち寄り 5 分とかからない彼女の愛の巣へ通われるのである。C ママはその番をして呑み代の数倍の口止め料と見張り料を戴いているのである。

途中で奥様から滅多にない電話がかかると「すみません、丁度、お手洗いです」とか「お連れ様と隣の店へ」とか言ってその場繕いをして、C 会長へ電話。すると C 会長が奥様へ返事をして何食わぬ顔。連絡事項は滞り無く通信可能。異常なし。

ところが常にこう旨く行くとはい限らないから世の中面白い、携帯電話が普通のこととなった今でも、

奥様 「今晚は、マーいつもは主人がお世話になっております。ご迷惑お掛けしてるんでしょ

うね。好き放題言って。あら主人は？」

来た来た一。突然奥様がおいでられた。私は奥様とは顔見知りではないので普通にしてるが、どうなることかとちょっとドキドキ。

しかし流石ママ 慌てもせず。

ママ 「いらっしゃいませ。こちらこそ、ご贔屓  
いただいて。ちょっとお待ちくださいませ、いま会長さんはタバコを切らしたと、  
ご自分で買いに行くと仰って、店を出られました。すぐ戻られますでしょう。呑  
みかけのグラスもそのままにされて」

おいおいこりゃワシがトイレに行く前の席の呑  
みくさしじゃ。よー言うてくれるわ。あーワシの  
ビールを捨てよ。それから暖簾の奥へ入って会  
長さんへそそくさと携帯電話。

暫くしてちょっと息を荒げて会長さんご登場。

C 会長「販売機のタバコが切れててあっちこっち  
探してやっとあった」

みると汗をタラタラ流して、風呂入っとる途中  
か上がったばかりか…。

C 会長「アンタ、何で突然来たんや？」

奥様 「いや、ちょっとビールでも一緒に呑も  
かーおもて。お父さん一人で美味しいこ  
としてるから……。マーえろー汗かいて」

吹き出る汗を拭き拭き奥様へ大サービス。今回  
はセーフ、セーフ。

会長ご夫妻が店を出られたあとから

ママ 「あれバレたんとちがうやろか、風呂湯の  
臭いプンプンよ。石鹸の臭いもしてたし。  
女の勘と嗅覚って当たるのよ。センセも  
彼女とラブホテルへ時化込んで風呂で、  
石鹸を使ったり、シャンプーしたら証拠  
をぶら下げて帰るようなもんよ」

— 「アーもワシに振るなっちゃん。そげなこと  
ないかなーと願ってもありゃせん。それ  
にしてもママ、凄い手だれのあしらいやっ  
た。凄い、うまい、咄嗟にペロッとセリ  
フが出るよね、名人芸」

ママ 「仕事しごと、あれくらいしてあげないと  
お金もらえんよ」

— 「そのとーり、やけどママ、伊達に歳取っ  
ちゃいねー。お見事」

C 会長は安心してママの店へ寄り、いい事をし  
て(?) ここへ戻ってきてアルコールを身体に滲  
ませて何食わぬお顔でご帰還あそばすのである。

— 「70 ぎても会長さん元気でおさかんや  
な一。相手の人、ママ知っちゃるん？」

ママ 「知らんよ。知っとる訳ないやろ一。私ら  
の知らんこといね」

— 「ところで、ママ。C 会長に幾ら貰ったん  
かいな。阿漕なこと言うて搾り取っとる  
んやないん？」

ママ 「よーそんな気に障ることスラスラ聞いて  
くれるよね。阿呆か、いくらよって教え  
る莫迦はおらんやろ。企業秘密じゃね」

— 「C 会長おいでる度に 2 万円くらい払って  
おられるので、月に 20 万円は下らん筈よ。  
別会計もあるん? ええ一儲けやね」

ママ 「そら一ヒト助けて、いいコトして上げて  
るじゃん。も一放っといてネ。そういう  
の下司の勘ぐりって言うんよ」アハハ…

三方両得か。こんな洒落たスナックの利用法も  
あるんです。

それにしても、お元気にせせとお通いになる  
C 会長、事故のない、尻尾の出ない長いお遊びを  
お祈り申し上げます。咄嗟の vaginism、および  
ご加齢による ED 時の必要品などのご用命はどう  
ぞご遠慮なくお申し出くださいませ、廉価にてお  
世話させていただきます。ハイ。



## 阿蘇山へ

美祢市 野間 史仁

以前、阿蘇に行った時、普段見られぬ風景が印象に残り、息子が生まれた時に小さなうちに一度は阿蘇の風景を見せてみようと思っていたのだが、今年の連休中、急に思いついて 5 月 5 日、熊本に行く事にした。

地図で見ると案外近く、連休の終盤でもあり人出も減っており、少し長時間のドライブと思えばいいだろうと軽く考え実行することにした。

美祢西インターより高速道路に乗り西に向って走り出した。渋滞のためスムーズには走れない所が数か所あったのだが、これも長くは続かず余りイライラしないうちに熊本インターに近付いた。

インター出口まで 2km に渡り渋滞、「観光地はこんなものかな、でもこれが最後の渋滞だろう」と軽く考えていた。

インターを出て一般道路の国道 57 号線に入っても、渋滞は緩和するどころかますます激しくなっており、まったく進まない状態となってきた。

そのうち道端に道の駅が出現、食事をかねて「そのうち渋滞も解消されるだろう」と時間待ちをする事にし、約 1 時間過ごし道路を見てみたが、渋滞はまったく改善されていなかった。此時までに出発して 6 時間経っていた。

再び道に戻りダラダラと進んでいると右に大きな橋が見えて来た。直進の道路は渋滞で身動きの取れない状態だったのでこの橋を渡った。しばらく走るとガソリンスタンドがあったので、ガソリンの補給がてら道順を聞く事にした。この道を進むと草千里を迂回し、裏側から噴火口に登ることになるとのことだったので、この道を進み登山道に入った。

以前、3 回火口には登った事があるが、このルートを通るのは初めてだった。急なカーブの続く道で、周りは急な斜面にビッシリと草が生え、秋吉台自動車道を思わせる風景であった。

火口近くまで車で登ることができた。溶岩の間に道ができ、周辺には草一本生えておらず、此处まで登ってきた登山道とはまったく別の光景であった。火口には霧のような煙が立ち込め、エメラルド色の火口湖が時折僅かに見える程度であった。夕暮れが迫っていたためゆっくり雰囲気を楽しむこともできず、草千里に寄り、乗馬をさせたあと、帰路を急いだ。同じ道は渋滞の印象があり、違うルートの大分方面を通って帰ることにし、反対の下山道に出たが、ここも途中からまたも渋滞。山並みハイウェイに向い曲がったところから渋滞は解消されたが、このころから日は落ち回りも薄暗くなった中、曲がりくねった山の国道をひたすら走った。

周りが見えない中、山を越え草原の中を走り、再び何回も曲がりくねった山道を降りて行き、湯布院のインターチェンジより高速道路に入り、これを宇佐方面に走ったのだが、高速道路は途中までしか開通しておらず、宇佐インターで一般道路に降ろされた。ここでも夜が更けているのに渋滞が続き、北九州までほとんどノロノロ運転の状態であった。北九州で高速道路に乗り、美祢に帰ってきた時には 23 時半を過ぎていた。

渋滞の中でほとんどの時間を過ごし、阿蘇を余り満喫することなく、知らない土地をたださま迷っただけとなったドライブであった。

その後息子に「阿蘇にもう一度行こうか」と聞くと「もう二度と行きたくない」と拒否されている。

美祢にはない雄大な自然を見せようと思いついたドライブであったが、観光時期の道路事情の悪さと、忍耐それに無計画に行動すると大変な目に遭うということを教えただけのようなものである。

## あ と が き

編集委員 薦 田 信

7 月 20 日、やっと梅雨が明けた。この 1 か月あまり 5 つの台風が日本に接近するというハイペース。これはエルニーニョ現象によるものらしい。

台風 7 号こそ山口県に上陸しそうにみえたが、大陸からの偏西風で東へ追い遣ってしまった。感謝。

開花を楽しみにしていた自宅の中庭の夏椿。葉腋に白花を一個ずつ開くが、今年は半開きのまま花の命を終えた。これも異常気象のせいだろう。朝開いて夕には散る、といういさぎよさ。

さて、緑陰随筆をお届けします。30 編の原稿をいただき、多彩で充実した内容になり、ありがとうございました。

約半数は趣味に関するもので、なかでも旅行記が 11 篇あり、うらやましがりつつ読ませていただいた。

「自分の操縦で一年かけてゆっくり世界一周したい」という神田会員、夢が叶うとよいですね。

私も以前、後輩の練習機（4 人乗り）で、宇部空港から北九州市上空を約 40 分間同乗させてもらったことを思い出しました。怖かったという記憶はなく、快適なフライトだったと思います。ただし練習機のためのフライトなので、上空でエンジン停止を体験した同乗者もあったようです。

望月会員の「他人の女」はどんな女性が登場するか・・・と期待しました。標題の妙ですね。

表紙（裏表紙）の写真は兼定啓子会員です。清涼感溢れるショットありがとうございました。

臨時国会もいよいよ終盤。来年度の予算編成では「骨太の方針第 2 弾」として社会保障関係費約 9 千億円の圧縮が求められる。となれば医療費もまた数千億円の圧縮を要求されるだろう。これをすんなり容認するいさぎよさを会員はお持ちでしょうか。

